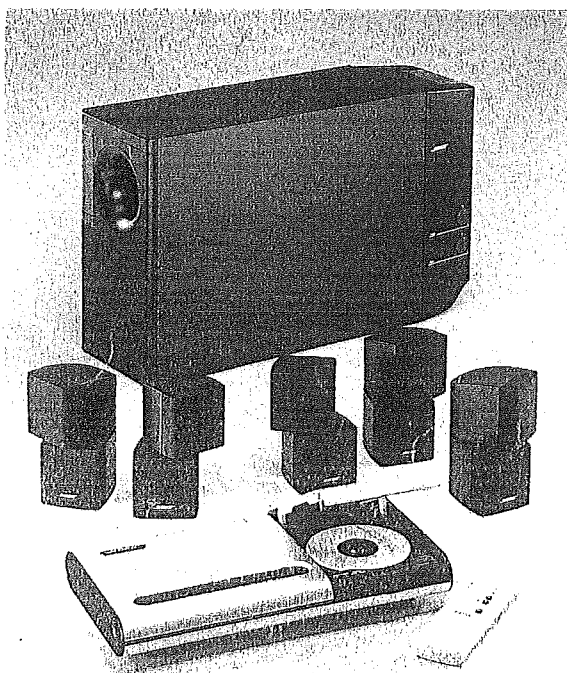
BOSE®

OWNER'S MANUAL

"BD" 内蔵ホームシアター・サウンドシステム

LS-12 II

この度はLS-12 II システムをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、必要なときにご覧になれるよう保管しておいてください。

LS-12 II システム取扱説明書

※説明の便宜上、イラストは原型と異なる場合があります。

目 次

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は注意を促す内容を告げるものです。
（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
警告	水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
		●乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。
	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
		●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
		●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 警告

通風孔のある機器のみ
●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。
この機器をあお向けや横倒しし、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。
テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。

●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。
●この機器の通風孔、カセットテープの挿入口、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

分解禁止
●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。

●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加工したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。
ACアウトレット(電源コンセント)付き機器のみ
●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されております。接続する装置の消費電力の合計が表示されているW(容量)を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。

⚠ 注意

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電源を入れる前には音量(ボリューム)を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
電池を使用する機器のみ
●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス ＋ と － の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

●お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

⚠ 警告	⃠	●スピーカーコードの上に重いものをのせたり、コードが製品の下敷きにならないようにしてください。また、壁や棚などの間にはさみ込んだりしないでください。スピーカーコードを傷つけて火災の原因となります。
	⚠	●スピーカー内部に金属片や異物などを落とさないでください。ショートや発熱などを起こし、火災の原因となります。
	❗	●スピーカーコードを熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災の原因となります。
	⃠	●スピーカーコードを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。
	⃠	●<本製品>を分解したり改造しないでください。破損や火災の原因となります。
	❗	●熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには設置しないでください。そのような場所で使用しますと、火災の原因となります。

⚠ 注意	⃠	●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。
	❗	●スピーカーを高いところに設置される場合には、作業が不安定になりますので作業には十分ご注意ください。けがや事故の原因となります。
	⃠	●定格を超える入力を入れた状態や長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
	⃠	●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。
	⃠	●取付金具をご使用になる場合は、ご使用になるスピーカーに対応しているボーズ社製の金具をご使用ください。他メーカーの金具や、対応外の金具を使用するとスピーカーの破損や落下のおそれがあります。

音のエチケット

●音量は時や場所に応じて適度な大きさに調整してください。特に、静かな夜間は小さな音でも通りやすいものです。

あなたが放送やCD、テープ、又はビデオディスクや市販のソフトから録音や録画したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

スピーカーの防磁について

※サテライトスピーカーの防磁について

サテライトスピーカーは、キャンセリング・マグネット方式とシールドカンを併用した低磁束漏洩型になっていますのでテレビやモニターなどに近づけても、画面に色ムラなど影響が生じにくくなっていますが、まれに画面に色ムラなど影響が生じる場合があります。その場合はテレビやモニターから本機を十分離し、テレビの電源を切り、15分から30分の間隔をあけてから再度テレビの電源を入れてください。テレビの自己消磁機能によって、正常な画面に戻ります。その後も、画面に影響が生じる場合には、本機をさらにテレビから離してご使用ください。

※アクースティマスの防磁について

アクースティマス内部のスピーカーは、防磁処理が施されていませんので、テレビやモニターなどに近づけないでください。近づけると、画面に色ムラなど影響が生じる場合があります。その場合はテレビやモニターから本機を十分（約60cm以上）離し、テレビの電源を切り、15分から30分の間隔をあけてから再度テレビの電源を入れてください。テレビの自己消磁機能によって、正常な画面に戻ります。その後も、画面に影響が生じる場合には、本機をさらにテレビから離してご使用ください。

LS-12Ⅱシステムのお手入れについて

キャビネットの汚れを落とす場合

●汚れやホコリは、柔らかい布でから拭きしてください。から拭きをする場合は、傷を付けないようにご注意ください。

●汚れがひどいときには、中性洗剤を薄めた水にやわらかい布を浸し、堅く絞って拭きとってから、やわらかい布でから拭きしてください。

●アルコール、シンナー、ベンジンなどの薬品はキャビネットの表面をいためますので、ご使用にならないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

特 長

●あらゆるソース(音源)を独立5チャンネルで再生

内蔵するドルビーデジタル・デコーダーとボーズオリジナルデジタル・プロセッサで構成されるデジタル処理技術-ボーズデジタル "BD"。この技術によって、ソースがドルビーデジタル(AC-3)信号で記録されているものはもちろんのこと、ドルビープロロジック、ステレオ、モノラル信号までも、その信号に含まれている微量な音場信号を解析して、5本のスピーカーにそれぞれ独立した音声信号を送ります。

●低域の位相干渉を排し、濁りのない低音再生を実現した、"BDベースパワーサミング回路"と"デジタル・アクースティマス"

同じ部屋の中に多数のウーファーがあると、それぞれからの低音の干渉による悪影響が起きてしまいます。ところが、5チャンネルまたは6チャンネル分の低域信号を単純にひとつに合成しようとすると、信号の位相が微妙にずれていたり特定のチャンネル同士では反転している場合あり、非常に困難です。その問題を解決して、位相に関係なくエネルギーを合成するのが、BDベースパワーサミングテクノロジーです。そして、その合成された低域エネルギーを効率良く歪のない音響エネルギーとして放出するのが、6チャンネル分のパワーアンプを内蔵し、3チャンバーを持つデジタル・アクースティマスです。これらの技術により、たった一台のデジタル・アクースティマスからパワフルで、ゆとりのある低音再生を実現しました。

●深夜や大きな音を出せない時でもバランスよく再生ができるBDダイナミックレンジコンプレッション回路搭載

映画に録音されている音声の最大音量時と最小音量時の差を、再生時の音量に合わせて自動的に圧縮。深夜や小さな音量で再生している時でも微細な背景などの音から、爆発音や衝突音などの大迫力の効果音までをバランスよく、そして、一番大切なセリフは常に明瞭に再生することを可能にしました。

●映画館の音響特性を家庭で再現する新フィルムEQ装備

映画のサウンドトラックは、低音を10dB圧縮して録音されています。そのため、LS-12Ⅱシステムには、この圧縮された分を自動的に補正するフィルムEQ(イコライザー)を装備しています。ところが、フィルムEQを働かせたままで映画以外のソースを再生すると音のバランスが不自然になってしまいます。そこで、LS-12Ⅱシステムの新フィルムEQはCD、FM、AMを聞くときには働かないようになっています。さらに新フィルムEQには、映画館のような大きな部屋の音響特性を家庭の部屋でも再現できるように補正する機能も追加されました。

LS-12Ⅱシステムが対応しているソースと機器について

●デジタル・オーディオビットストリーム信号に対応しています。

ドルビーデジタル、DD DOLBY SURROUND、Dolby Digital、または、PCMと表示されているDVDソフトが使用できます。ただし、DTS、MPEG-2のデジタルビットストリーム信号には対応していません。これらのDVDソフトを使用する場合は、DVDプレーヤーからのアナログ信号でお楽しみください。

●サラウンドで録音されているソースに対応しています。

ビデオソフト、オーディオテープ、CD/LDソフトなどで、Dolby Surround、または、DD DOLBY SURROUNDと表示されているものは、5チャンネルサラウンドでお楽しみいただけます。

●ステレオ放送や、ステレオ録音されているソースに対応しています。

テレビの地上波や衛星放送、FM放送、CD、LD、LP、コンパクトカセット、ゲームソフトその他ステレオ方式で再生できるソフト全てに対応しています。ボーズデジタルにより5チャンネルサラウンドでお楽しみいただけます。

●モノラルソースに対応しています。

モノラル録音されているソースでもボーズデジタルのシミュレーテッド・サラウンドモードで、5チャンネル再生をお楽しみいただけます。

●デジタル・オーディオビットストリーム信号を同軸(COAXIAL)で出力できる機器と直接デジタル接続できます。

同軸(COAXIAL)のデジタル出力端子を持つ機器と直接デジタル接続ができます。LS-12Ⅱシステムは、光デジタル信号は入力できませんので、光デジタル出力端子しかないものは、市販の光ー同軸変換器が必要になります。

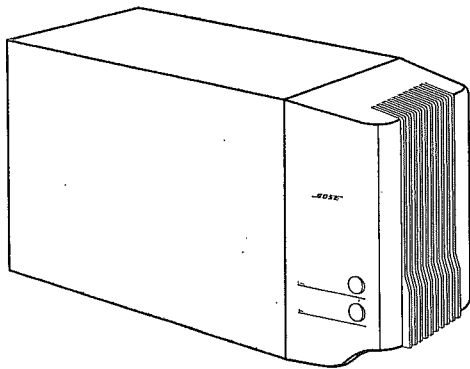
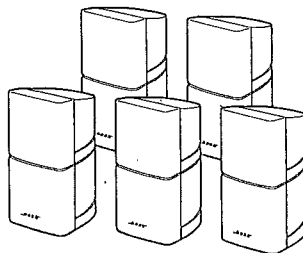
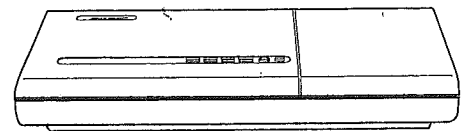
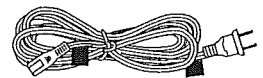
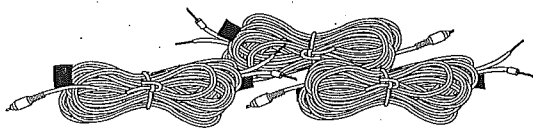
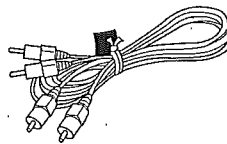
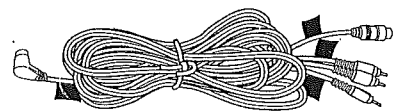
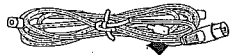
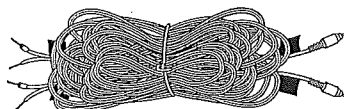
●アナログオーディオ信号が出力できるあらゆる機器に対応しています。

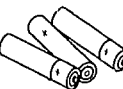
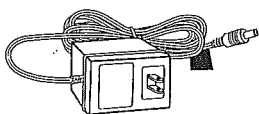
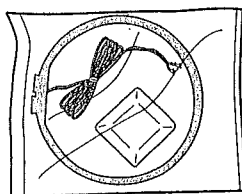
ステレオテレビ、ビデオカセットレコーダー、衛星チューナー、ケーブルテレビチューナー、DVDプレーヤー、LDプレーヤー、ビデオゲーム機などアナログオーディオ信号が出力できる機器全てに対応しています。アナログ信号をLS-12Ⅱシステムのミュージックセンターに接続すればボーズデジタルにより5チャンネルサラウンドでお楽しみいただけます。

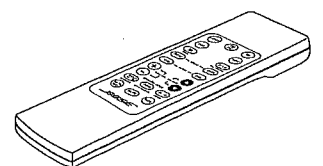
開梱時のご注意

◆ 付属品を確認してください ◆

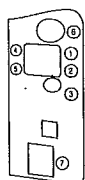
もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買上になった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。

> ⚠警告
>
> ●LS-12Ⅱシステムのアクースティマスは、約14kgあります。移動する際に、腰を痛めたりしないように十分注意して持ち上げてください。
>
> ●窒息する危険がないように、スピーカーを包んでいたビニール袋は子供の手の届かない場所に保管してください。

アクースティマス（非防磁型）

サテライトスピーカー　（防磁型）×5

ミュージックセンター

アクースティマス用ACケーブル

フロントスピーカー用ケーブル　6m×3

オーディオピンケーブル　3m

デジタル入力用ケーブル付
ミュージックセンター・アクースティマス
接続ケーブル 9m

FMアンテナ

サラウンドスピーカー用ケーブル　15m

ケーブルガード

リモコン用乾電池

ミュージックセンター用
ACパワーパック

AMアンテナ

CD×2

リモートコントローラー（リモコン）

センタースピーカー用ゴム足

アクースティマス用ゴム足

アクースティマス用シート

ブラケット用
アダプター×5

ブラケット用アダプタービス×5

ミュージックセンター用シート

付属のブラケットアダプターを使用することで、101シリーズ、100シリーズ用のスピーカー取付金具（ただし一部の金具を除く、平成11年9月現在）もご使用になれます。

図のようにサテライトスピーカーにアダプターを取り付けてください。

※対応金具についてのお問い合わせは販売店もしくはボーズ株式会社（34ページ参照）までご連絡ください。

◆ LS-12Ⅱシステムの設置位置を選ぶ ◆

下記ガイドラインに従ってスピーカーを設置すると、反射音と直接音との組合せにより、映画館などで感じる迫力と臨場感が得られます。サテライトスピーカーの位置と向きをいろいろ試してみて、最も快いと感じる方向を探しながら設置してください。サラウンド用のサテライトスピーカーの向きは、どこから音が出ているのかがはっきりとは分からないように向きを調整してください。サラウンド用のサテライトスピーカーはリスナーに直接向けないように設置する方がよい結果が得られます。スピーカーの音量バランスの調整および室内音響効果についてさらにお知りになりたい場合は「LS-12Ⅱシステムの音響調整」（32ページ）をご参照ください。

◆ スピーカーの設置位置 ◆

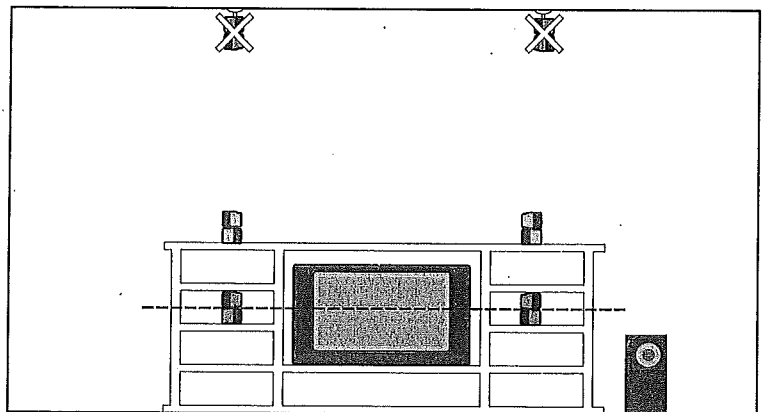
下記の手順に従って、映画館のような臨場感が得られるようにLS-12Ⅱシステムを設置します。

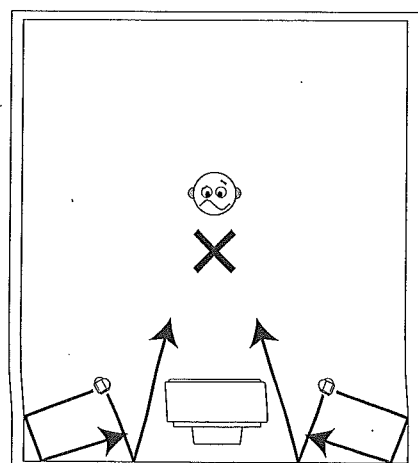
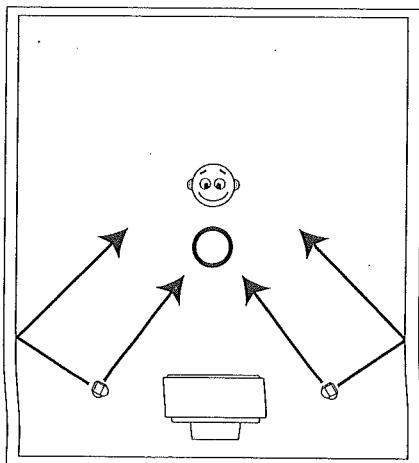
● フロントLch（左側）とフロントRch（右側）サテライトスピーカー

1. 音の広がりの感じが視覚のイメージに近くなるように、左右のフロントスピーカーから出る音声はテレビやスクリーンなどの画面の両端から聞こえるように設置します。フロントスピーカー用のケーブルの長さは約6mありますので、アクースティマスからの距離はケーブルの長さの範囲で設置してください。

・画面の両脇にスピーカーどうしを約2～5m離すか、テレビの端から10～20cm離れるように設置します。

・音像と映像のバランスを取るために、画面中央と同じ高さにフロントスピーカーを置くことをおすすめします。
画面の上端の高さに置くこともできます。

※天井から吊り下げたりして、極端に画面の高さと違う場合は音像の移動感と映像の移動とが不自然になります。極端に高さは違えないほうがよいでしょう。

2. サテライトスピーカーの上下2個あるスピーカーのうち1個のスピーカーを前面に向けてください。もう一方のスピーカーは、壁の方向あるいは前方以外に向けて反射音を作り出します。

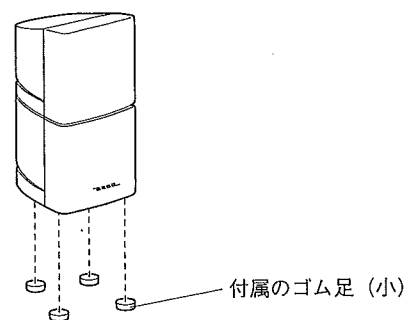
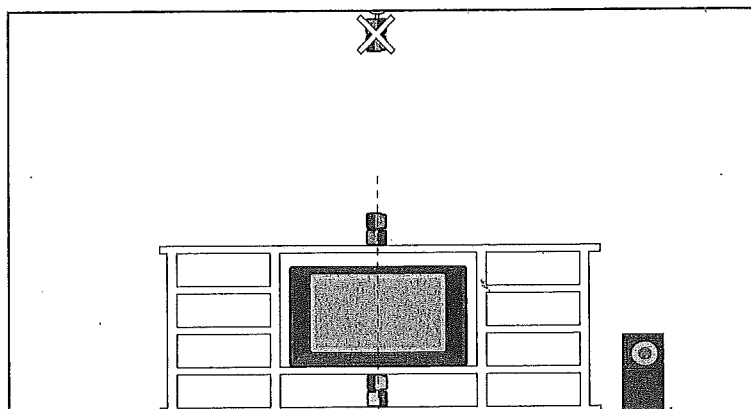
注:サテライトスピーカーは、テレビの近くに設置しても画面に影響が出ないような防磁型（キャンセリングマグネット十シールドカン方式）を採用しています。

● センター（前方中央）サテライトスピーカー

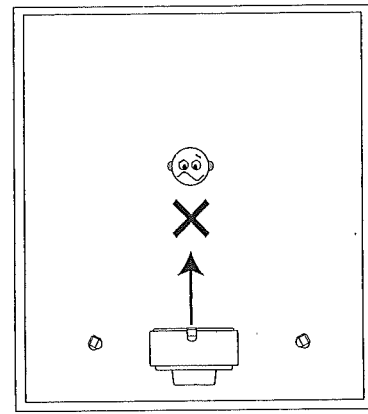
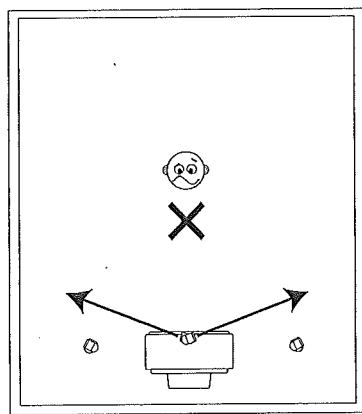
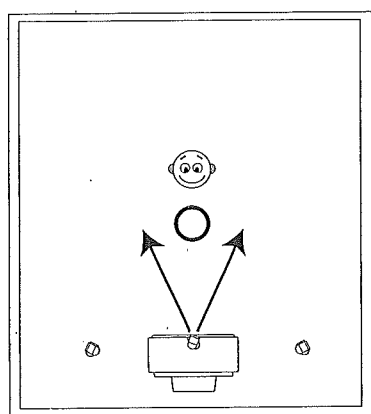
1. センタースピーカーから出る音声は、画面の中央から聞こえるように設置します。センタースピーカー用のケーブルの長さは約6mありますのでアクースティマスからの距離は、ケーブルの長さの範囲で設置してください。

・サテライトスピーカー１台をセンタースピーカーとしてテレビの上または下に置きます。下に置く場合はサテライトスピーカーに直接テレビの重量がかからないようにしてください。

・センタースピーカーを画面の上下にできるだけ近い位置に置くと、会話が画面上から聞こえやすくなります。

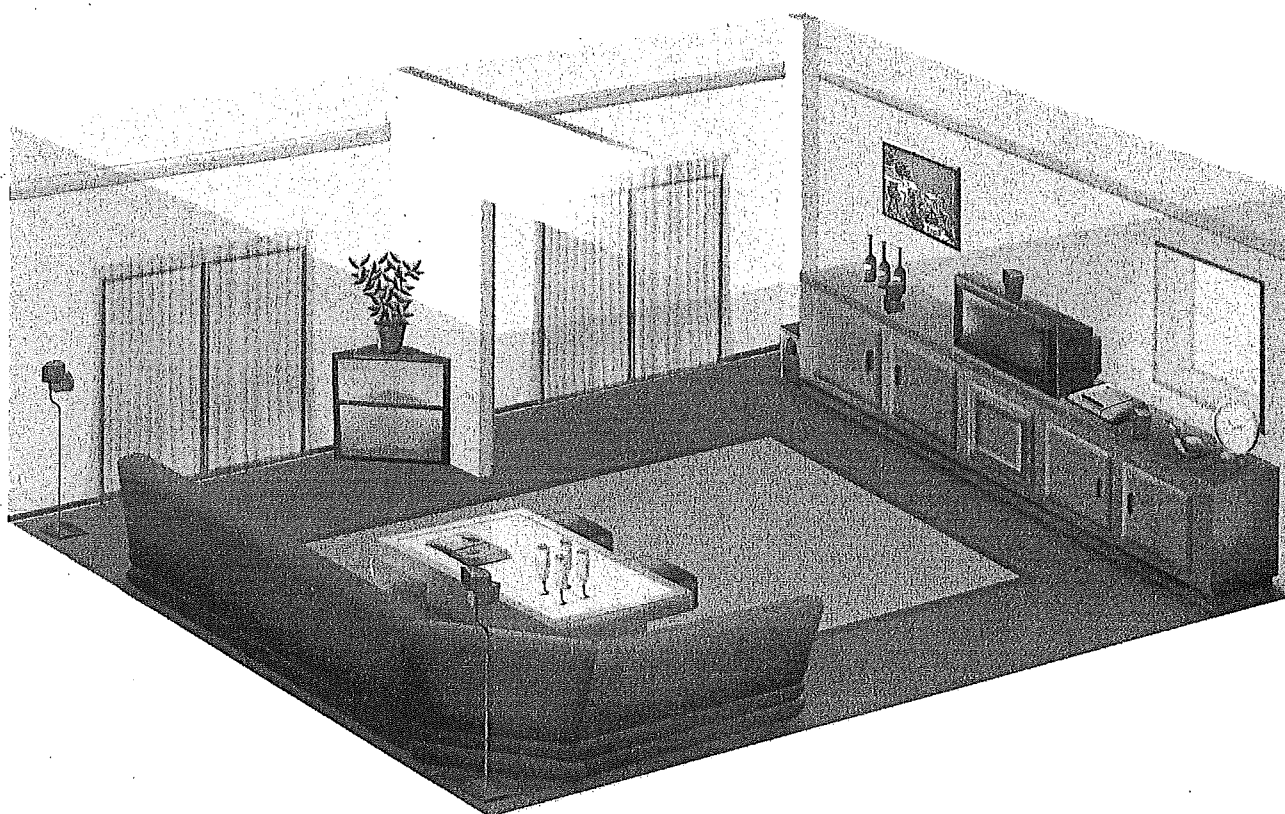
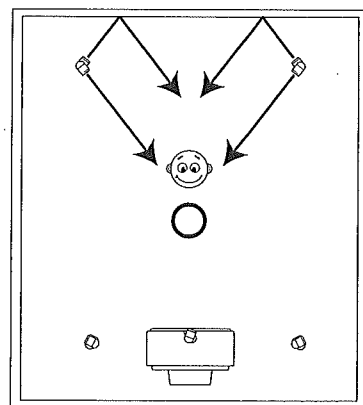
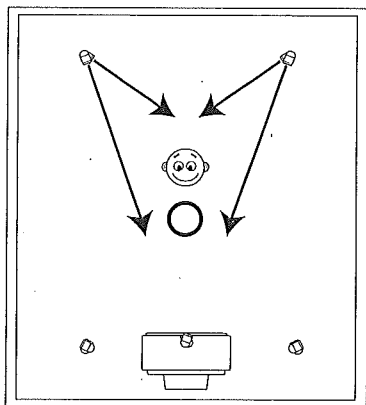
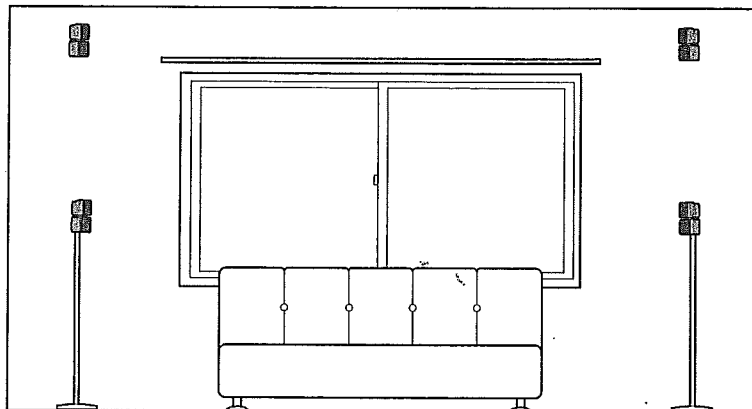
※天井から吊り下げたりして、極端に画面の高さと違う場合は音像の移動感と映像の移動とが不自然になります。極端に高さは違えないほうがよいでしょう。

※テレビの上に置く場合は、なるべく画面の一番手前になるように置いてください（テレビの奥の方には置かないでください）。

> ⚠ 注意
> テレビの上にセンタースピーカーを配置する場合、安定性を良くするために
> センタースピーカー用ゴム足（小）を使用してください。

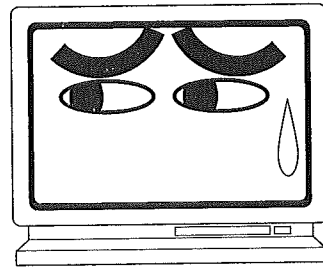
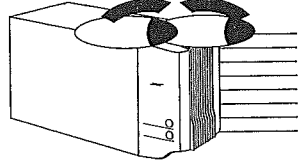
2. サテライトスピーカーの上下2個のスピーカー各々を中心線からわずかに左右に向けて、広い範囲直接音を作り出します。

注:スピーカーを書棚などの家具に置く場合には、必ず各々のスピーカーを書棚の前面部に設置してください。周囲を取り囲まれた空間にスピーカーを設置しますと、音質が変化します。書棚に本などを入れる場合、その量によって音質が変化しますのでご注意ください。

● サラウンドLch（左側）とサラウンドRch（右側）サテライトスピーカー

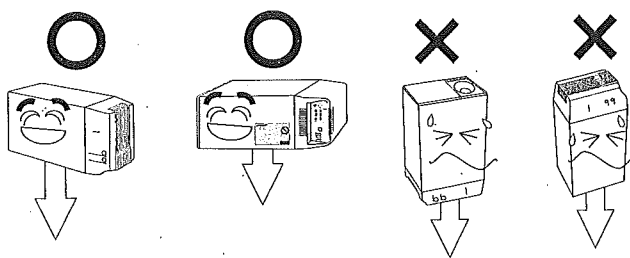
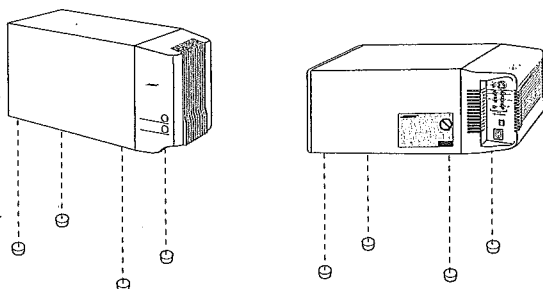
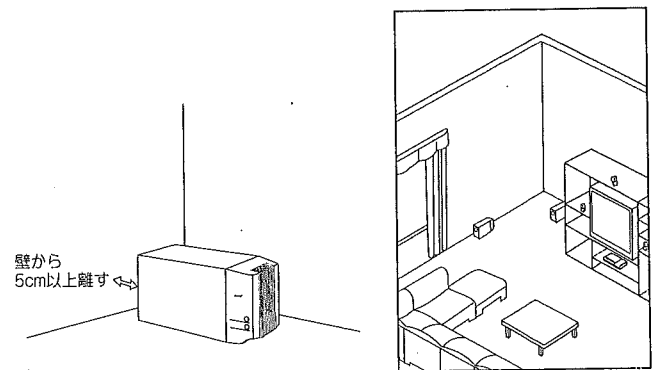
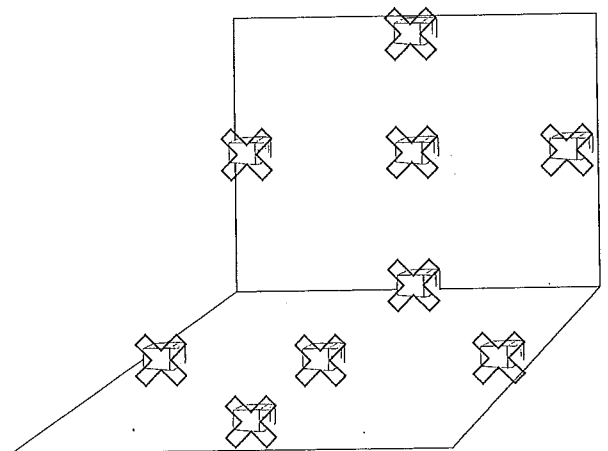
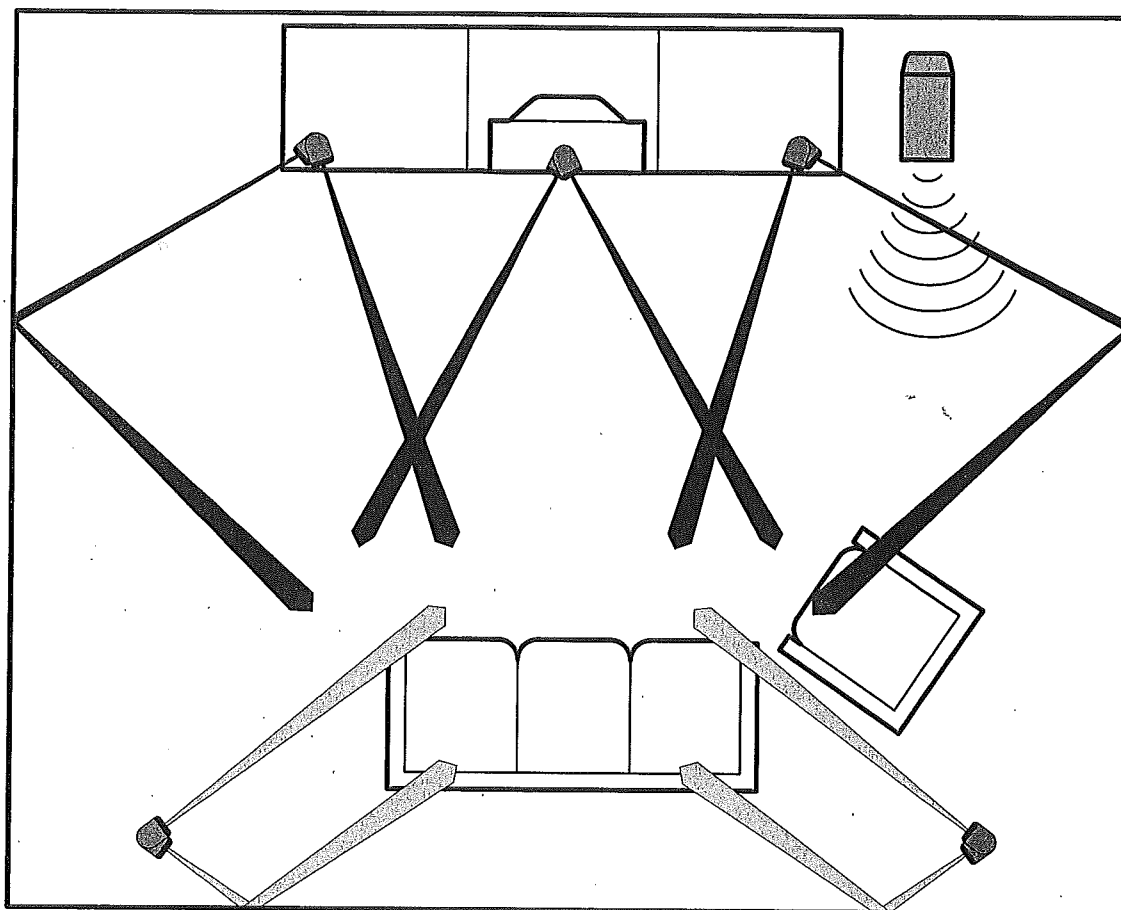
サラウンド（リア）スピーカーは、なるべく、室内の半分よりうしろに設置してください。高さは、耳の高さかそれより高い位置に取り付けます。サラウンドスピーカー用のケーブルは約15mありますので、アクースティマスからの距離はケーブルの長さの範囲で設置してください。

サラウンドの音声は、リスナーを前後ではさむように向けます。

◆ アクースティマス ◆

下記の手順に従って、アクースティマスの設置位置を選んでください。

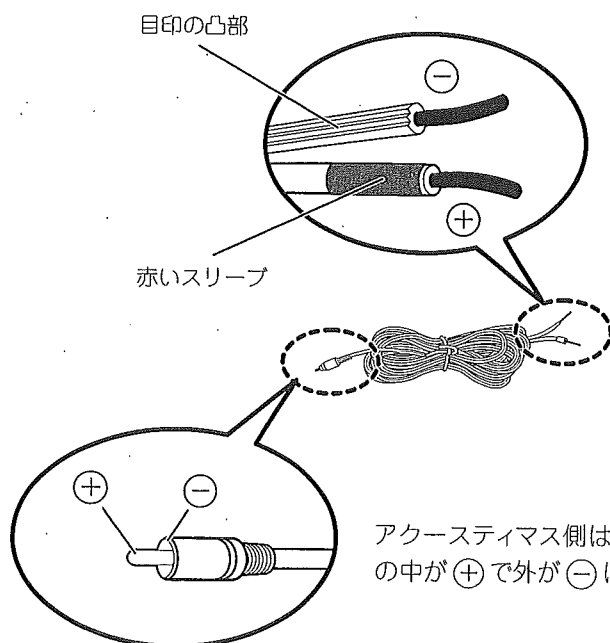
注：アクースティマス内部のスピーカーは防磁されていません。テレビ画面への干渉を避けるために、アクースティマスはテレビから少なくとも60cm以上離してください。

1. フロントスピーカーを設置した部屋の端に近い壁か、テレビのうしろの壁にアクースティマスを設置します。その際、入力用スピーカーケーブル、各スピーカーケーブルおよび、ACケーブルが届くことを確認してください。また、アクースティマスは、テーブルの下や、ソファーの陰などに設置してもかまいません。その際、家具やカーテンがアクースティマスの換気開口部を塞がないように十分気を付けてください。

2. アクースティマスの置き方を決めます。アクースティマスには、アンプが内蔵されていますので、適切なアンプの冷却を行うために、コネクター部を下にして設置するか、調整用のつまみを上にして設置してください。

注:側面のスリット部分からの空気で内部の機器の冷却を行っていますので、決してアクースティマスのスリットの部分を塞がないでください。

3. アクースティマスの置き方が決まったら、底面の4隅の付近に付属のスペーサーを貼り付けてください。アクースティマスの安定が良くなり、傷などが付きにくくなります。

4. ポート（丸い開口部）が塞がったり低音が出過ぎないように、ポートを室内、あるいは壁に沿うように向けます。
ポートを壁側にする場合は5cm以上離すようにしてください。

5. アクースティマスは、壁と壁の中央や、天井と床の中間の高さにならないように設置してください。低音に対して悪い影響が出る場合があります。

◆LS-12Ⅱシステムの設置例◆

⚠ **注意** スピーカは、水平で安定した表面を選んで設置してください。

ケーブルについて

◆フロントスピーカー用ケーブル、サラウンドスピーカー用ケーブルの極性の見分け方◆

スピーカー用ケーブルの極性（⊕、⊖）は、図のようになっています。

スピーカー側は、赤いスリーブが付いている方が ⊕ になります。スリーブが取れてしまったり、ケーブルを短くしてご使用になる場合は、図のようにケーブルに凸がある方が ⊖ になりますのでケーブルの凸を目印にしてください。

アクースティマス側はピンプラグの中が ⊕ で外が ⊖ になります。

◆ ミュージックセンター ◆

●ミュージックセンターの位置を選びます。

1. CDプレーヤーのカバーが開けられるだけの十分な空間を空けます。

2. 付属のオーディオピンケーブルの長さを考慮して、ミュージックセンターを音源（DVD、LDプレーヤー、ビデオデッキなど）に十分近接して設置します。また、電磁ノイズの影響を避けるため、テレビからはできるだけ遠ざけてください。

3. アクースティマスからの距離が約9m（ミュージックセンター・アクースティマス接続ケーブルの長さ）の範囲に、ミュージックセンターを設置します。

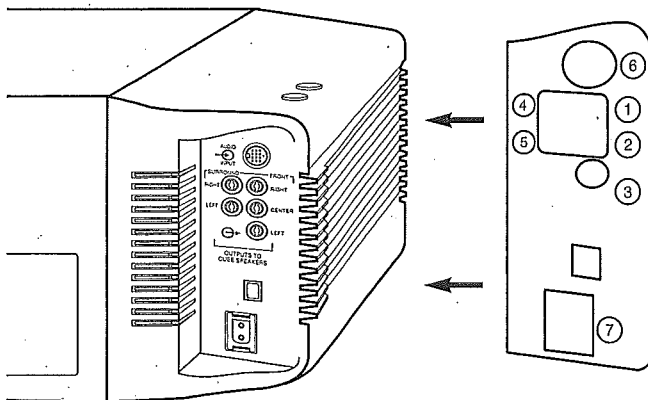
※付属のオーディオピンケーブルの長さが合わない場合や、追加で必要な場合は、市販のオーディオピンケーブルを別途ご用意ください。

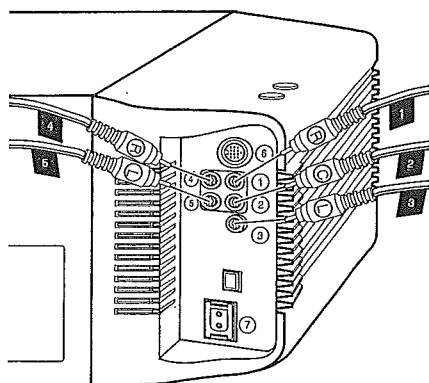
注意 ミュージックセンター・アクースティマス接続ケーブルは、リモコンのアンテナになっています。ケーブルをまるめたり、束ねたりしないでできるだけ延ばしてご使用ください。また、ケーブルは電磁波などの雑音の影響を避けるためテレビから1m以上離して設置してください。リモコンの効きが悪い場合はケーブルを動かしてみて感度が上がるように設置し直してください。

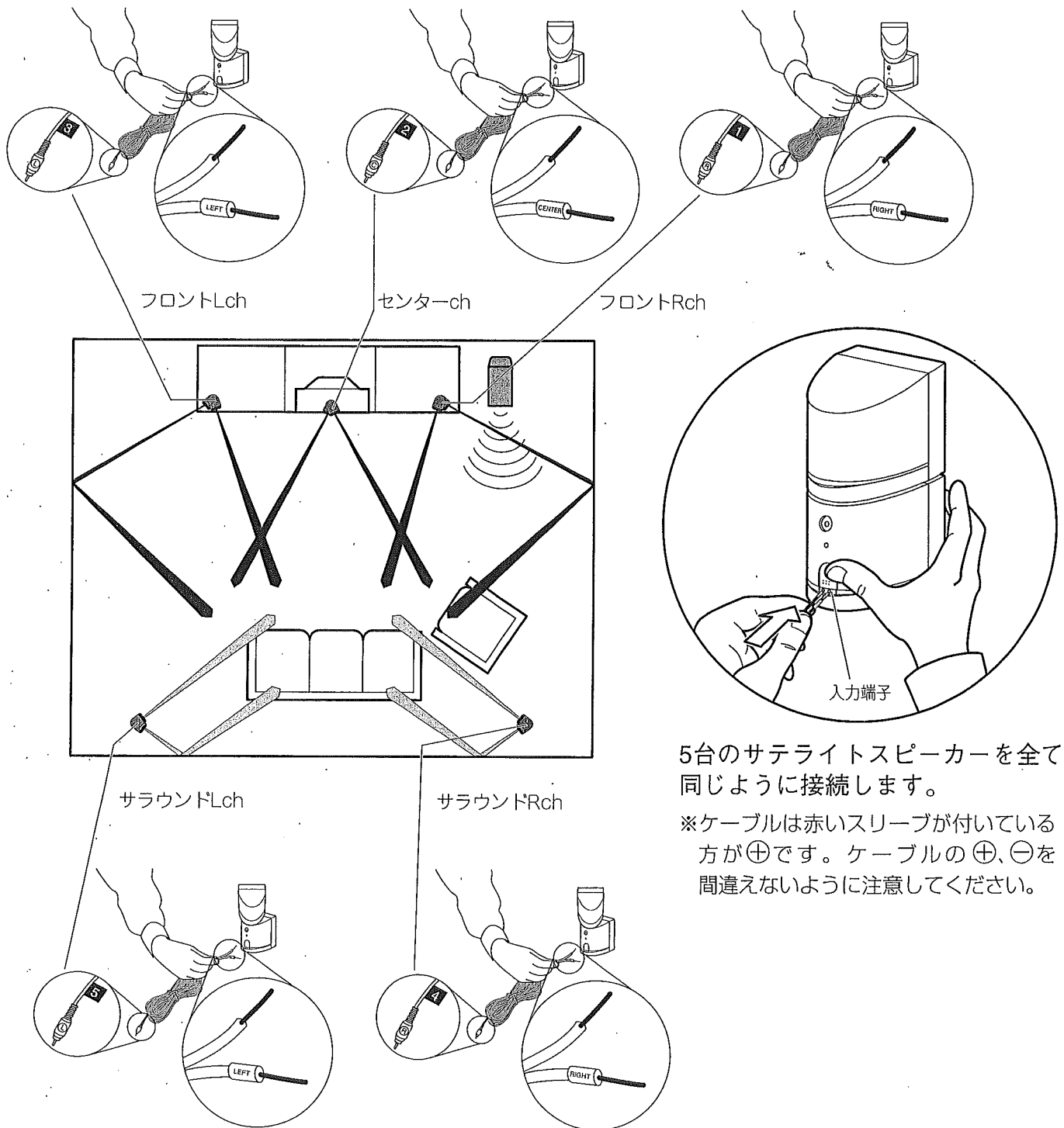
アクースティマスとスピーカーを接続する

アクースティマスの設置位置が決まったら、サテライトスピーカーの接続を行います

1.アクースティマスとスピーカーケーブルを接続します。

a アクースティマスの入力部分に付属のシートを貼ります。

シート裏面のはくり紙をはがし、位置を合わせて貼ってください。

b シートの番号と同じ番号のスピーカーケーブルのプラグを確実にアクースティマスのジャックに差し込みます。

※
① - フロントRch（右側）スピーカー用
② - センター（前方中央）スピーカー用
③ - フロントLch（左側）スピーカー用
④ - サラウンドRch（右側）スピーカー用
⑤ - サラウンドLch（左側）スピーカー用

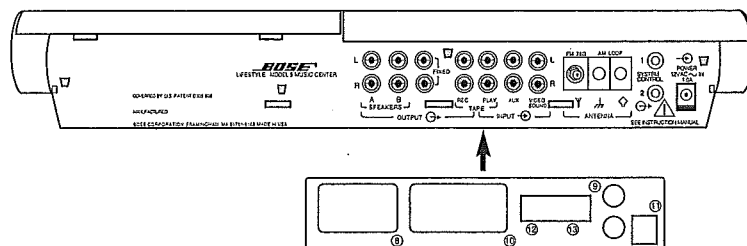
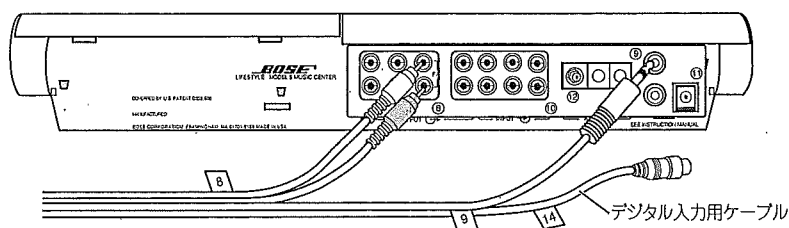
2. スピーカーケーブルとサテライトスピーカーを接続します。

5台のサテライトスピーカーを全て同じように接続します。

※ケーブルは赤いスリーブが付いている方が⊕です。ケーブルの⊕、⊖を間違えないように注意してください。

青いプラグ　番号 [1], RIGHTのケーブルはフロントRch (右側) スピーカーにつないでください。
青いプラグ　番号 [2], CENTERのケーブルはセンター (前方中央) スピーカーにつないでください。
青いプラグ　番号 [3], LEFTのケーブルはフロントLch (左側) スピーカーにつないでください。
オレンジのプラグ　番号 [4], RIGHTのケーブルはサラウンドRch (右側) スピーカーにつないでください。
オレンジのプラグ　番号 [5], LEFTのケーブルはサラウンドLch (左側) スピーカーにつないでください。

3.ミュージックセンターとアクースティマスを接続します。

シートの番号に合わせてミュージックセンター・アクースティマス接続ケーブルの各プラグをそれぞれの端子に確実に差し込んでください。

a ミュージックセンターの背面に付属のシートを貼ります。

b シートの番号と同じ番号のケーブルのプラグを確実に奥まで差し込んでください。

注意	ミュージックセンター・アクースティマス接続ケーブルは、必ずFIXED端子に接続してください。SPEAKERS A,B 端子に接続しますと音が歪んでしまったり音量の上下がうまく働かなくなります。

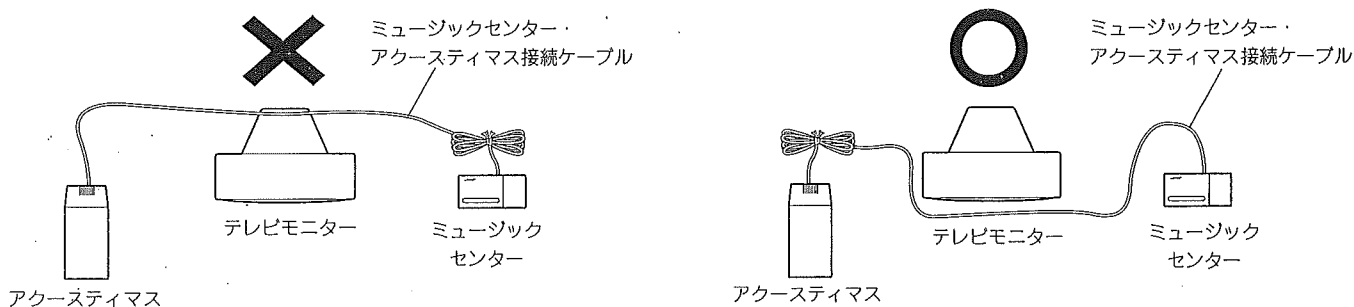
※⑧音声信号用オーディオピンケーブル。白がLEFT（左）、赤がRIGHT（右）

⑨アクースティマスコントロール信号ケーブル

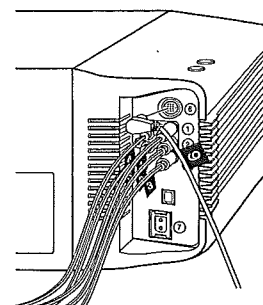
注意

1.テレビモニターの背面部（ネック部）は高圧発生部があるため、信号ケーブル（ミュージックセンター・アクースティマス接続ケーブル）は近づけないでください。

2.接続ケーブルはなるべく伸ばして接続してください。

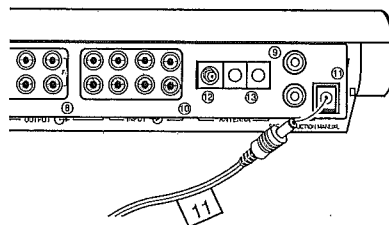
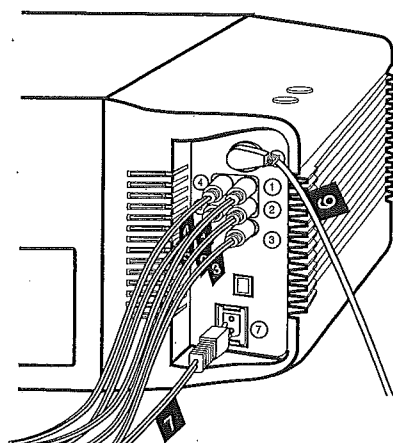
3.ケーブルがあまってしまった場合は、アクースティマス側で束ねるようにしてください。

4.アクースティマスへケーブルを接続します。

DINコネクター（13ピン）を向きに注意して奥までしっかり差し込みます。

※⑥ミュージックセンター・アクースティマス接続ケーブルのDINコネクター

注意

ミュージックセンター・アクースティマス接続ケーブルは、リモコンのアンテナになっています。ケーブルをまるめたり、束ねたりしないでできるだけ延ばしてご使用ください。また、ケーブルは電磁波などの雑音の影響を避けるためテレビから1m以上離して設置してください。リモコンの効きが悪い場合はケーブルを動かしてみて感度が上がるように設置し直してください。

5.アクースティマス用ACケーブルとACパワーパックを接続します。

⚠ 注意　すべての結線が終わるまでコンセントに差し込まないでください。

※⑦アクースティマス用ACケーブル
　⑪ミュージックセンター用ACパワーパックからのケーブル

外部の機器をLS-12Ⅱシステムに接続する

3つの入力端子／TAPE、AUX、VIDEO SOUND※は、目安としての名称です。どの入力端子にどの外部の機器を接続しないと故障するという内容のものではありません。しかし、使い勝手や初期設定モードの関係で、名称に合った機器を接続することをおすすめします。

※VIDEO SOUNDのVIDEOとは、ビデオデッキだけを指すものではありません。TVの音声、ビデオデッキ、ケーブルテレビやBS・CSチューナーの音声などを意味しています。

◆初期設定について◆

入力端子の名称	AUX、VIDEO SOUND	内蔵CD/FM/AM/TAPE
フィルムEQ（25ページ参照）	ON	OFF※
ダイナミックレンジコンプレッション（25ページ参照）	ON	OFF

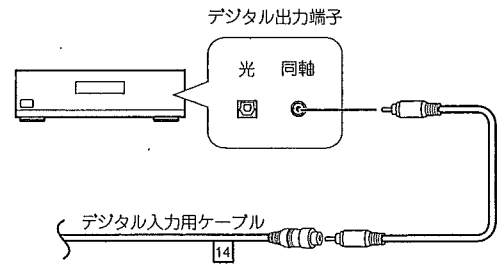
設定は再生途中で変更することができます。詳しくは、フィルムEQについて（25ページ）、ダイナミックレンジコンプレッションについて（25ページ）を参照してください。

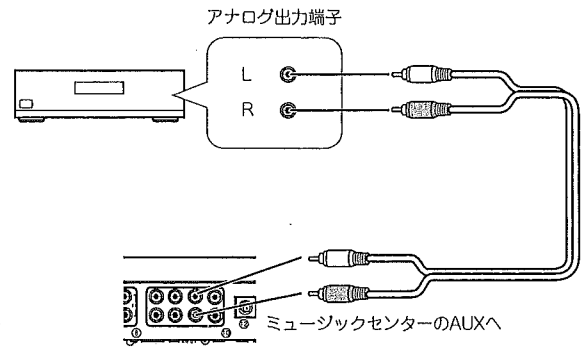
※内蔵CD/FM/AMはフィルムEQの設定（OFF）を変更することはできません。

●DVDプレーヤー、CDチェンジャーなど、同軸（COAXIAL)デジタル出力端子を持つデジタル機器との接続について

デジタル信号とアナログ信号の両方を接続してください。デジタル信号とアナログ信号の両方が入力された場合は、デジタル信号が優先されます。

・外部デジタル機器の同軸デジタル出力端子とLS-12Ⅱシステムのデジタル入力用ケーブルを市販のオーディオピンケーブルまたは映像用ピンケーブルで接続します。

※外部のデジタル機器と本システムのデジタル入力ケーブルまでの距離が2mを超える場合には、オーディオピンケーブルを使わず同軸ケーブル（インピーダンス75Ω）をご使用ください。

・外部デジタル機器のアナログ出力端子と、ミュージックセンター背面のAUX入力端子を市販のオーディオピンケーブルで接続します。

※光デジタル出力しか持たない機器の場合は、市販の光→同軸デジタル変換器が必要になります。詳しくは販売店にご相談ください。

※本システムは、DTS、MPEG-2のデジタルビットストリーム信号には対応しておりません。DTS、MPEG-2のソースをお使いになる場合は、アナログ信号で再生しますので、必ずアナログ信号を接続してください。

●LDプレーヤーの接続について

アナログ信号を接続してください。

・LDプレーヤーのアナログ出力とミュージックセンター背面のVIDEO SOUND入力端子を市販のオーディオピンケーブルで接続します。

※LDプレーヤーのドルビーデジタル（AC-3）RF出力は、そのままLS-12Ⅱシステムに接続することはできません。デジタル接続をする場合は、市販のRFモジュレーターが必要になります。詳しくは、LDプレーヤーをお買い上げになった販売店にご相談ください。RFモジュレーターをご使用になる場合は、RFモジュレーターの取扱説明書をよく読んで、上記のデジタル機器の接続方法で接続してください。

●ビデオカセットレコーダーとの接続について

Hi-Fi（ハイファイ）ビデオデッキの場合

・ビデオデッキの音声出力をミュージックセンター背面のVIDEO SOUND入力端子に市販のオーディオピンケーブルで接続します。

モノラルビデオデッキの場合

・ビデオデッキの音声出力を市販の1P→2P分岐ピンケーブルを使って、ミュージックセンター背面のVIDEO SOUND入力端子に接続します。

●MDレコーダー、カセットデッキなどの接続について

・ミュージックセンター背面のTAPE入力端子に、市販のオーディオピンケーブルで接続します。

●レコードプレーヤーの接続について

・LS-12Ⅱシステムのミュージックセンターには、フォノイコライザーが装備されていません。そのため、レコードプレーヤー内部にフォノイコライザーが装備されているもの以外は、直接接続できません。詳しくはレコードプレーヤーの取扱説明書をお読みになるか、販売店にご相談ください。

外部フォノイコラーザーまたはレコードプレーヤーにフォノイコライザーが内蔵している機器をご使用になる場合

・TAPE、AUX、VIDEO SOUNDいずれかの入力端子に、市販のオーディオピンケーブルで接続します。

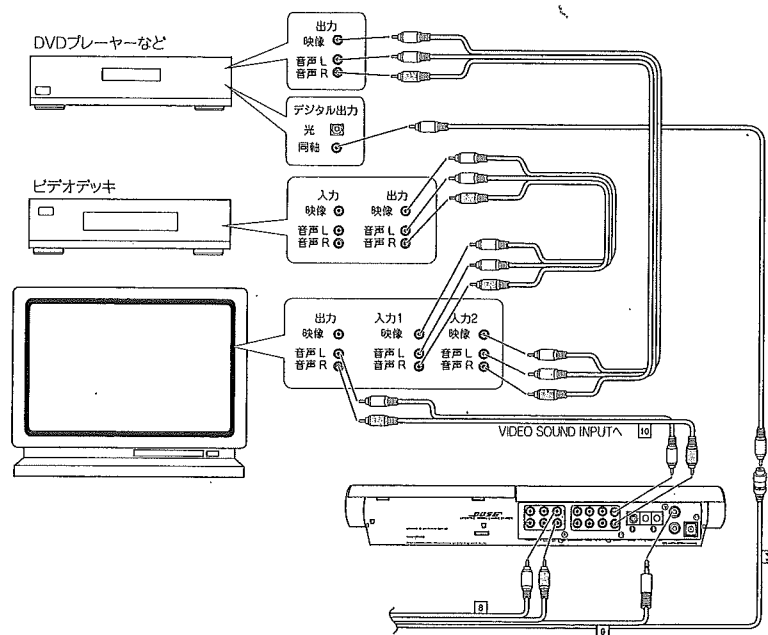
◆ 外部の機器の接続のしかた ◆

各機器の基本的な接続方法は3通りあります。
(1) 音源の切り換え用（セレクター）としてステレオテレビを使う方法。
(2) セレクターとしてステレオビデオデッキを使う方法。
(3) LS-12Ⅱシステムのミュージックセンターに各機器を直接接続して、ミュージックセンターで音源を切り換える方法。
※LS-12Ⅱシステムのミュージックセンターには映像信号の入力端子はありません。音声信号のみを接続してください。

(1) 外部の機器をテレビに接続してからミュージックセンターに接続する方法

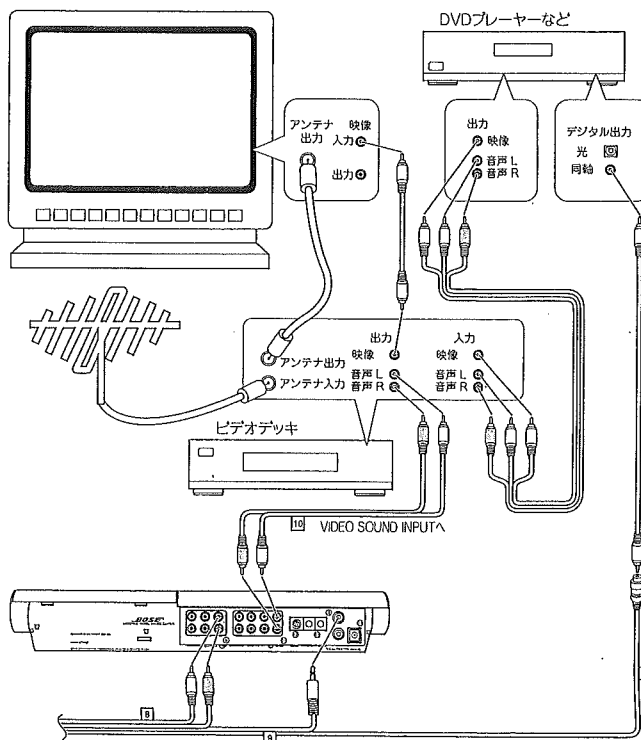
テレビがステレオ方式で固定音声出力を持っていて、この出力端子に選んだ信号源（ビデオデッキ、LDプレーヤー、衛生放送等）の音声が出力される場合

※テレビのスピーカーをオフにするか音量を下げて、テレビから音が出ないようにしてください。

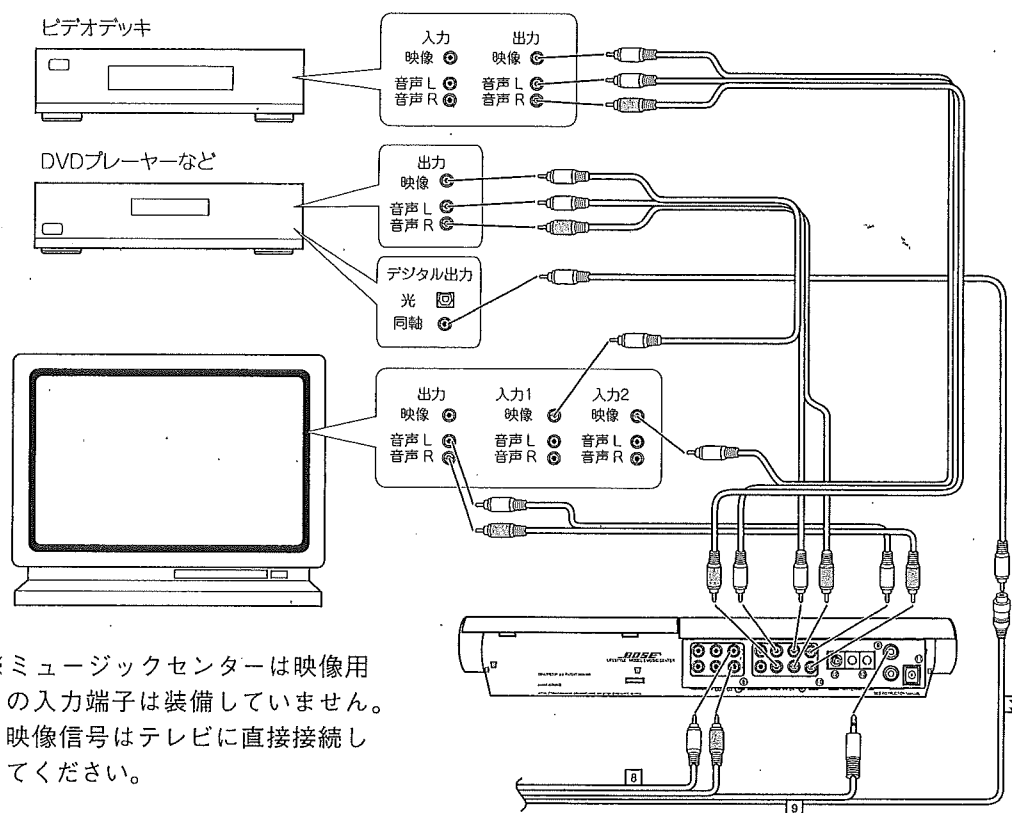
※外部の機器についての詳しいことはそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

(2)外部の機器をビデオデッキを通して接続する方法

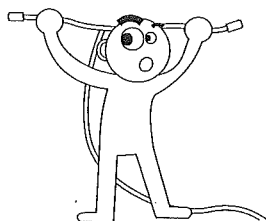
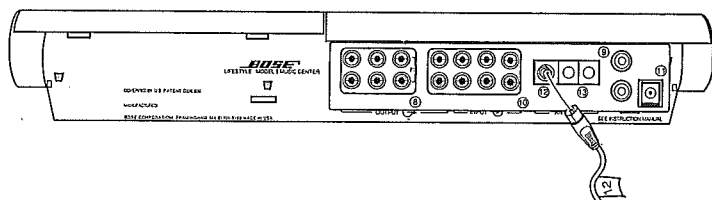
お使いのテレビがステレオ方式ではないなら、あるいは適切な音声出力端子が装備されていないなら、ステレオ方式のビデオデッキの音声出力端子をミュージックセンターに直接接続してください。ビデオデッキをセレクターとして使って、他の機器を選びます。

※テレビに外部入力端子がない場合はビデオデッキのアンテナ出力端子とテレビのアンテナ端子をアンテナケーブルでつなぎます。詳しい事はビデオデッキの取扱説明書をご覧ください。

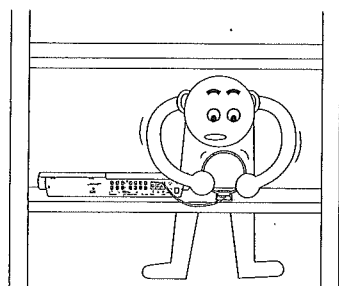
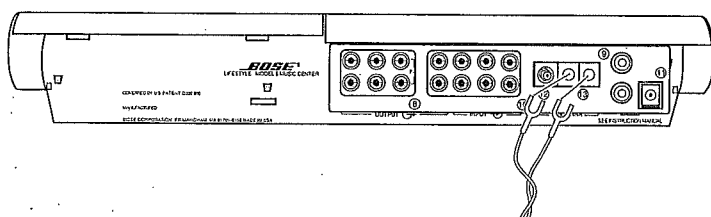
※この接続でご使用になる場合、テレビは映像を写すだけの機器として使用します。テレビ番組をご覧になるときはビデオデッキでテレビの番組を受信して、テレビは「ビデオ」または「外部」を選んでください。ビデオデッキとテレビをアンテナケーブルを使って接続している場合はテレビのチャンネルを1または2に合わせてください。

(3)外部の機器を直接ミュージックセンターに接続する方法

音源を選択するのにテレビあるいはビデオデッキを使えない、あるいは使いたくない場合は、音源をミュージックセンターに直接接続します。

※ミュージックセンターは映像用の入力端子は装備していません。映像信号はテレビに直接接続してください。

アンテナを接続する

◆ FMアンテナ接続 ◆

1. ミュージックセンターの背面⑫のジャックに⑫の番号の付いているプラグを確実に差し込みます。

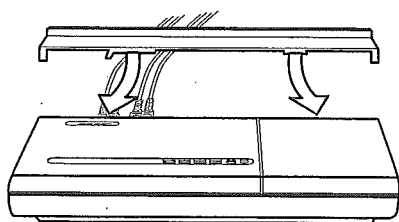
2. アンテナアームを広げます。このアンテナの向きや位置をいろいろ試してみて最良の設置場所をさがしてください。

◆ AMアンテナ接続 ◆

1. AMアンテナを袋から取り出しミュージックセンター背面の⑬端子にコードの先端部を取り付けます。

2. アンテナはミュージックセンターから50cm以上離して設置するようにしてください。

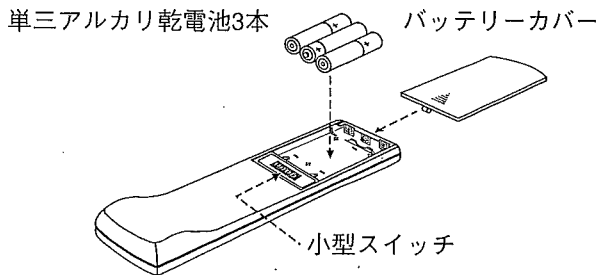
3. ループの向きをいろいろ試して感度がよくなるところを探してください。

※ AMアンテナの袋の中にある図解の取扱説明書も参照してください。

ケーブルガードを付ける

接続がすべて完了したら接続してあるケーブルやジャックが見えなくなるようにケーブルガードをミュージックセンターに取付けます。ケーブルガードの5個のツメは、ミュージックセンターの背面パネルの切り欠きにカチッとはまります。

リモートコントローラーに電池を入れます

リモートコントローラー（リモコン）を使用してもミュージックセンター側が反応しなくなったり、リモコンの信号の届く範囲が低減したように思われる時点で、電池を取り換えてください。交換用電池には、アルカリ乾電池を使用することを推奨します。

◆電池の入れ方◆

1. リモコン背面のバッテリーカバーをはずします。

2. 単三乾電池を3本、図のように入れます。電池の⊕／⊖と、電池ボックス内側のイラストと同じになるように、向きを間違えないように注意してください。

3. バッテリーカバーを滑らせるように元の位置に戻します。

※付属の乾電池は、動作チェック用です。ご使用の前に必ず新しい乾電池をご用意ください。安定動作のために、アルカリ乾電池を使用することをお薦めいたします。

注：小型スイッチは工場で設定してあります。必要な場合以外は設定を変えないでください。（31、35ページ参照）

 注意 電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となることがあります。

 注意 長時間（1ヶ月以上）使用しないときは、電池を取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし、液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
また、万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

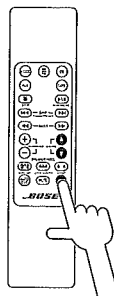
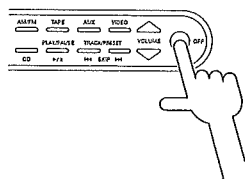
 注意 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液漏れにより火災、けがの原因となることがあります。

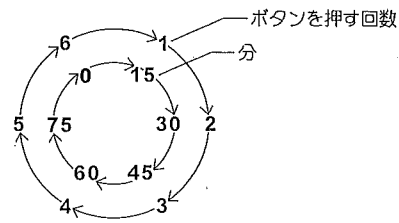
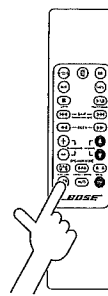
電源の入れ方

電源はミュージックセンターあるいはリモコンのAM/FM、TAPE、AUX、VIDEO、CDキーを押すことで入れられます。

注：接続に間違いがないことを確認してからまずアクースティマス用ACケーブルをACコンセントに差し込み、次にミュージックセンター用ACパワーパックを差し込んでください。

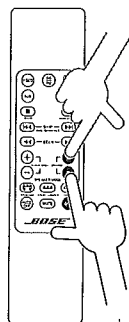
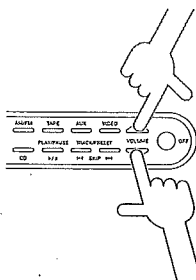
電源の切り方

すぐに電源を切る場合

ミュージックセンターのOFFキーあるいはリモコンのOFFキーを押します。

一定時間後電源を切る場合

リモコンのAUTO OFFキーを押します。
※この機能はリモコンでしか行えません。

音量調節のしかた

● 全体の音量調節のしかた

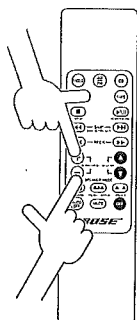
△または ◉ キーを押すと音量が上がり、
▽または ◉ キーを押すと音量が下がります。

ミュージックセンターあるいはリモコンのVOLUME（ボリューム）キーを使って音量を調節します。

※システム全体の音量が極端に大きいか、あるいは小さくしたままの場合、次の使用時の音量が自動的に調整されることがあります。

● センタースピーカーの音量調節のしかた

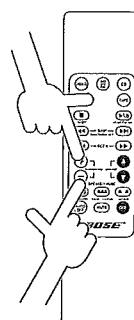
1.リモコンの STEREO+CENTER キーを押してSTEREO+CENTER（3スピーカー）モードにします。

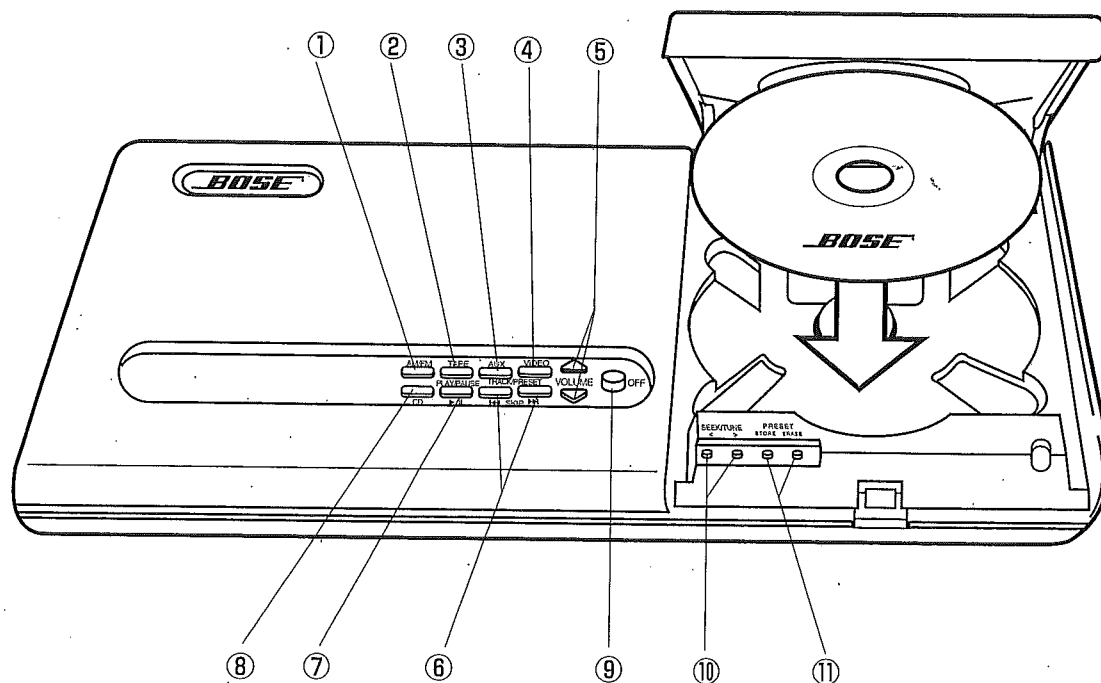
2.SURROUND（サラウンドボリューム）⊕キーを押すと音量が上がり、⊖キーを押すと音量が下がります。

※初期値に戻すには STEREO+CENTER キーを約10秒間、チャイムが3回鳴るまで押してください。

● サラウンドスピーカーの音量調節のしかた

1.リモコンの SURROUND キーを押してSURROUND（5スピーカー）モードにします。

2.SURROUND（サラウンドボリューム）⊕キーを押すと音量が上がり、⊖キーを押すと音量が下がります。

※初期値に戻すには SURROUND キーを約10秒間、チャイムが3回鳴るまで押してください。

キーの内容について

●ミュージックセンター部

①ラジオを選び、システムの電源を入れます。ラジオがついている場合に、AMとFMの切り替えを行います。

②TAPE入力端子に接続されている外部の機器を選び、システムの電源を入れます。

③AUX入力端子に接続されている外部の機器を選び、システムの電源を入れます。

④VIDEO SOUND入力端子に接続されている外部の機器を選び、システムの電源を入れます。

⑤システム全体の音量の上げ下げを行います。

⑥CDにおいて前あるいは次の曲、または、ラジオにおいて前あるいは次の登録されている放送局を選びます。
CD演奏時に ▶▶| (前方スキップ) キーと |◀◀ (後方スキップ) キーの両方を同時に押すと、CDの全曲を順不同に演奏します (ランダム演奏)。
また ▶▶| (前方スキップ) キーを押し続けるとCDを早送りします。
|◀◀ (後方スキップ) キーを押し続けるとCDを早戻しします。

⑦CDの演奏を開始、あるいは一時停止させます。
2秒以上押し続けると停止します。

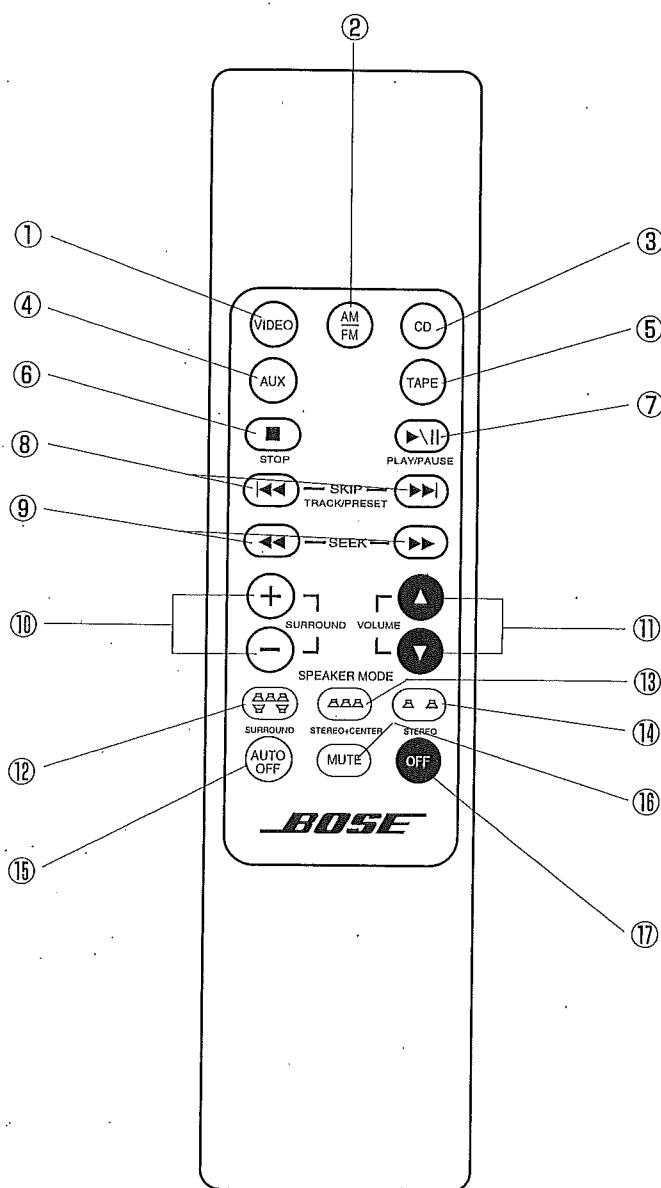
⑧内蔵CDプレーヤーを選び、システムの電源を入れます。CDの1曲目から演奏が始まります。

⑨電源を切ります。

⑩手動でラジオの周波数を上下させ、選局を行います。
このキーはミュージックセンターにしかありません。

⑪ラジオ放送局の登録、削除を行います。
このキーはミュージックセンターにしかありません。

キーの内容について

●リモートコントローラー（リモコン）部

このリモコンは、RF（電波式）ですので、リモコンを、ミュージックセンターに向ける必要はありません。

①VIDEO SOUND入力端子に接続されている外部の機器を選び、システムの電源を入れます

②ラジオを選び、システムの電源を入れます。ラジオがついている場合に、AMとFMの切り替えを行います。

③内蔵CDプレーヤーを選び、システムの電源を入れます。CDの1曲目から演奏が始まります。

④AUX入力端子に接続されている外部の機器を選び、システムの電源を入れます。

⑤TAPE入力端子に接続されている外部の機器を選び、システムの電源を入れます。

⑥※CDの再生を停止します。

⑦CDの演奏を開始、あるいは一時停止させます。2秒以上押し続けると停止します。

⑧CDにおいて前あるいは次の曲、または、ラジオにおいて前あるいは次の登録されている放送局を選びます。

⑨※CD再生の場合は、早送りや早戻しを行います。ラジオの場合は、次の電波の強いAM/FM放送局を自動的にさがします。

⑩※SURROUND（5スピーカー）モードの場合は、サラウンドスピーカーの音量の上げ下げを行います。
STEREO+CENTER（3スピーカー）モードの場合は、センタースピーカーの音量の上げ下げを行います。
又、STEREO（2スピーカー）モード時にこのキーを押すとSURROUND（5スピーカー）モードに切り替わります。

⑪システム全体の音量の上げ下げを行います。

⑫※SURROUND（5スピーカー）モードに切り替えます。シミュレーテッド・サラウンドのON/OFFの切り替えをします。（24ページ参照）

⑬※STEREO+CENTER（3スピーカー）モードに切り替えます。センタースピーカーの音量を調整します。（24ページ参照）

⑭※STEREO（2スピーカー）モードに切り替えます。ダイナミックレンジコンプレッションのON/OFFの切り替えをします。（25ページ参照）

⑮※一定時間後に電源を切ります（スリープ機能）。このキーを押す度に停止までの時間が15分間ずつ増えます（最高で75分間）。

⑯※スピーカーの音を一時的に消します。もう一度このキーを押すと戻ります。

⑰電源を切ります。

※：このキーはリモコンにしかありません。

スピーカーモードについて

LS-12Ⅱシステムの場合、2台、3台、あるいは 5台のスピーカーモードで自由に音楽を聴くことができます。電源を入れるとシステムは、自動的にSURROUND（5スピーカー）モードで演奏を始め、電源が入っていれば、音源のタイプに合わせてお好きなスピーカーモードに切り換えてお楽しみいただけます。
音源がサラウンド録音されていてもいなくても、SURROUNDモードで聴くことができます。たいていの音源（モノラル、ステレオ、あるいはサラウンド）を、3 あるいは 5スピーカーモードで聴くと、包み込まれるような音場でいながら、対話などのセリフを映像の中央に定位させることができます。

◆スピーカーモードの切り換え方◆

SURROUND（5スピーカー）、STEREO+CENTER（3スピーカー）、あるいは STEREO（2スピーカー）の各モードはリモコンで切り換えます。
電源が入った時はSURROUND（5スピーカー）モードです。

※ミュージックセンターではスピーカーのモード切り換えはできません。

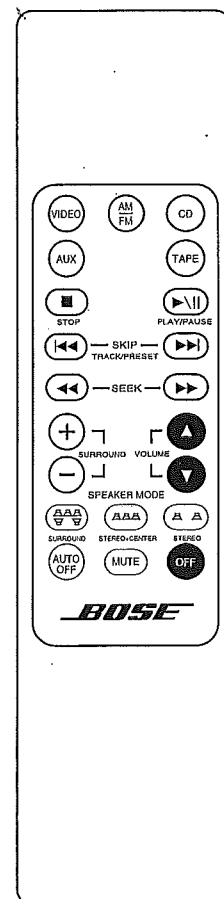
・演奏中は、どのスピーカーモード（SURROUND、STEREO+CENTER、STEREO）にも変えることができます。

●SURROUND ⊕／⊖（サラウンドの音量）キーについて

⊕/⊖ キーは
・SURROUND（5スピーカー）モードでは、サラウンドスピーカーの音量を上下させます。
・STEREO+CENTER（3スピーカー）モードでは、センタースピーカーの音量を上下させます。

・SURROUND（サラウンド）スピーカーの音量を初期設定値にもどすには キーを約10秒間、チャイムが3回鳴るまで押してください。

・センタースピーカーの音量を初期設定値にもどすには キーを約10秒間、チャイムが3回鳴るまで押してください。

・STEREO（2スピーカー）モードの時に、SURROUND ⊕、⊖ キー（どちらでも可）を押すと、最後に聞いていたSURROUNDのモード（シミュレーテッド・サラウンドモードがONまたはOFFの状態）になります。シミュレーテッド・サラウンドについては下記参照。

●SURROUND（5スピーカー）モード時

・LS-12Ⅱシステムは、電源が入るとSURROUND（5スピーカー）モードが自動的に選ばれます。音源がステレオやドルビープロロジック、ドルビーデジタルの場合はボーズデジタル5チャンネルでお楽しみいただけます。

モノラル音声のシミュレーテッド・サラウンドについて

SURROUND（5スピーカー）モード時でも、入力信号がアナログ、デジタルにかかわらずモノラル音声の場合は、フロント側のスピーカーからしか音が出ません。5チャンネル全てから音を出してサラウンドモードをお楽しみになりたい場合は、 キーをチャイムが1回鳴るまで押してください。シミュレーテッド・サラウンドがONになり、音楽に包まれるようなサラウンド再生が楽しめます。シミュレーテッド・サラウンドをOFFにする場合は、 キーをチャイムが2回鳴るまで押してください。

●STEREO＋CENTER（3スピーカー）モード時

・フロント側のスピーカーから音を出して楽しめます。STEREO（2スピーカー）時よりも、歌手のボーカルやセリフがフロント左右のスピーカーの中央から聞こえます。

●STEREO（2スピーカー）モード時

・フロント左右のスピーカーからのみ音が出ます。通常のステレオシステムで音声を聞くのと同じになります。

フィルムEQについて

映画の音声はセリフの明瞭度を向上させるため低音の音量を下げて録音されています。映画館と同様の迫力と臨場感を再現するために、映画の音声を再生する場合は、通常の再生に比べて低音を強調して再生する必要があります。
LS-12Ⅱシステムには映画の音声を再生するのに最適な“フィルムEQ”を内蔵しています。この“フィルムEQ”は映画の音声を再生するときに低音を約10dB増幅して再生します。これにより映画本来の音声バランスになり、映画館と同様の迫力と臨場感を再現できます。
この“フィルムEQ”はVIDEOまたは、AUXを選んで電源を入れると自動的に働きます。また、“フィルムEQ”は好みや部屋の状況によって解除することもできます。“フィルムEQ”を解除する場合は、もう一度ミュージックセンターのVIDEOまたは、リモコンの(VIDEO)キーを押します。
さらに、TAPE入力端子に接続してある機器を再生するときでも“フィルムEQ”を働かせることができます。TAPEを選んだ時点では“フィルムEQ”は働いていませんが、ミュージックセンターのTAPEまたはリモコンの(TAPE)キーをもう一度押すと“フィルムEQ”を働かせることができます。
この“フィルムEQ”は内蔵AM/FMチューナー、内蔵CDプレーヤー使用中は働きません。

入力切替	VIDEO SOUND	AUX	TAPE
選択時	○	○	×
同じキーをもう一度押す	×	×	○

※ミュージックセンターに内蔵されているCD/FM/AMにはフィルムEQはかかりません。

ダイナミックレンジコンプレッションについて

映画の音声はごく小さな音から、衝突、爆発音といった極端に大きな音までいろいろな大きさの音声が含まれています。そのため、深夜や映画館のように大きな音を出せない場合は、大きな音に音量を合わせて再生すると、小さな音やセリフがよく聞こえないことが起きてしまいます。LS-12Ⅱシステムでは、小さな音で再生しても映画の全ての音を聞き易くするために、最大の音と最小の音の差を小さくするためのダイナミックレンジコンプレッション機能を装備しました。
LS-12Ⅱシステムのダイナミックレンジコンプレッションはご使用になる音量に合わせて自動的に働きます。大きな音量でお使いになるときは、ダイナミックレンジコンプレッションの効きが弱まり、小さな音で再生するときはより効果を強めます。そのため、大きな音量でご使用になるときにわざわざOFFにしたり、ごく小音量時にダイナミックレンジコンプレッションの効き具合を調整したりする必要はありません。

●ダイナミックレンジコンプレッションをON/OFFするには

・基本的にはON/OFFの必要はありませんが、お好みによりON/OFFすることができます。

	初期設定	初期設定の変更
VIDEO、AUX	ON	ON ⇨ OFF (STEREO) キーをチャイムが2回鳴るまで押す。
TAPE、内蔵CD、内蔵FM/AM	OFF	ON ⇨ OFF (STEREO) キーをチャイムが2回鳴るまで押す。

コンパクトディスクを聴いてみましょう

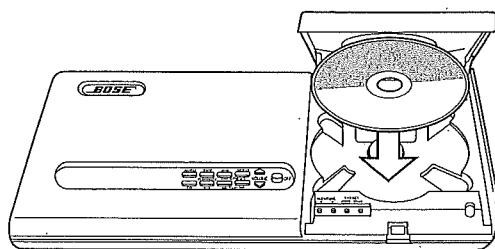
◆ 結露現象について ◆

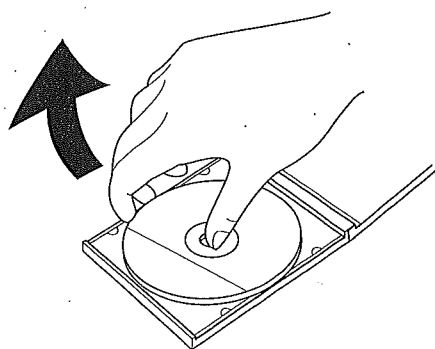
冬、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がつき、くもってしまう現象、これが結露現象です。CDプレーヤーも冷えきった状態のまま暖かい部屋に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、光学系のレンズ（ピックアップのレンズ部分）に露が生じ（結露）、レーザーによるコンパクトディスクからの信号読み取りができず、プレーヤーが動作しないことがあります。
このような現象が生じた場合は、周囲の状況にもよりますが、電源を入れ1時間程放置すると結露が取り除かれプレーヤーは正常に動作するようになります。

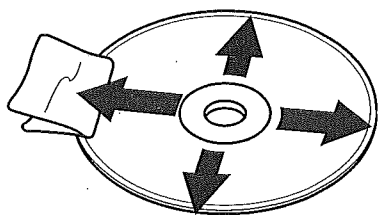
ディスクの取り扱いについて

ディスクの表面にキズをつけないよう大切に扱ってください。

ディスクのセットは必ずレーベル面を上にして、セットしてください。

※CD（コンパクトディスク）は、2枚以上重ねて置いたり、CD以外のものをトレーの上に置かないでください。
故障の原因になります。

七色に輝く面が表面です。レーベル面が裏面になります。従来のレコードプレーヤーと異なり、コンパクトディスクプレーヤーは、レーザー光線のピックアップでディスクの下側からディスクに触れることなく情報を読み取ります。したがって従来のレコードのように、使っているうちに性能が劣化するようなことはありません。

ディスクをケースから取り出すときは、必ずケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持って取り出してください。

ディスクを持つ場合には、演奏面（ラベルの印刷していない面）に触れないように、両端をはさんで持つか中央の穴と端をはさんで持ってください。

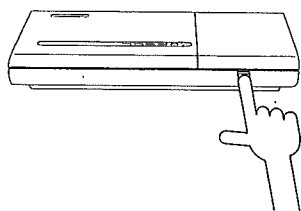
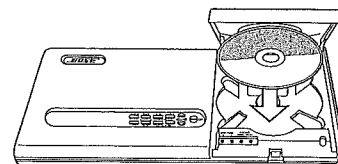
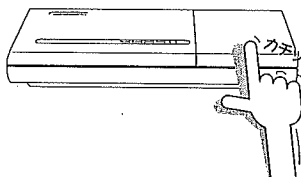
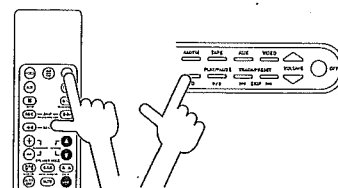
ディスクの表面はいつもきれいに
コンパクトディスクの記録面には最大60億個の情報が入っています。ディスクの表面を拭くときは必ずコンパクトディスク専用のクリーナーを使用して下の図のように拭いてください。

※コンパクトディスクはプラスティック製です。従来のアナログディスク用クリーナーや帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの揮発製の薬品を使用すると、コンパクトディスクの表面に悪い影響を与えますので絶対に使用しないでください。

コンパクトディスクの保管上の注意

コンパクトディスクはケースに入れて正しく保管しましょう。ディスクを大切にするために次のような場所に置くことはさけてください。

- ●直射日光のあたる場所。
- ●暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。
- ●車の中など高温になる場所。
- ●投光照明機などの発熱物の近くの場所。
- ●極端に寒い場所。
- ●湿気や水分のある場所、プール、浴室などの湿気の多い場所。
- ●屋外や直接水のかかるところ。

◆CDプレーヤーの操作◆

1.ミュージックセンターのフロントエッジのCDカバーラッチを押して、蓋を開けます。

2.ミュージックセンターにCDをレーベル側を上にしてセットします。

3.蓋を閉じるときは、ラッチがカチッというまで、CDカバーを押し下げます。

4.リモコンあるいはミュージックセンターのCDキーを押します。

5.システムは、SURROUND（5スピーカー）モードで再生を始めます。スピーカーモードは、リモコンの （3スピーカーモード）あるいは （2スピーカーモード）のキーを押すことによってSTEREO+CENTER（3スピーカー）モードあるいはSTEREO（2スピーカー）モードに切り換えることができます。

・停止あるいは一時停止しているCDを再生するには、ミュージックセンターまたはリモコンの ▶/Ⅱ（プレイ／一時停止）キーを押します。

・CDを一時停止させるには、ミュージックセンターまたはリモコンの ▶/Ⅱ（プレイ／一時停止）キーを押します。

・CDを停止させるには、ミュージックセンターまたはリモコンの ▶/Ⅱ（プレイ／一時停止）キーを2秒以上押し続けるか、リモコンの ■ STOPキーを押します。

・曲をスキップするには、ミュージックセンターまたはリモコンの ▶▶|（前方スキップ）キーを押して、次の曲に移るか、あるいは |◀◀（後方スキップ）キーを押して、現在あるいは前の曲の始めに移動します。

・曲を早送りまたは早戻しするには、ミュージックセンターの ▶▶|（前方スキップ）キーを押し続けるか、リモコンの ▶▶（前方サーチ）キーを押して、早送りしたり、ミュージックセンターの |◀◀（後方スキップ）キーを押し続けるか、リモコンの ◀◀（後方サーチ）キーを押して早戻しします。

・CDを曲順不同で再生（ランダム再生）するには、ミュージックセンターの ▶▶|（前方スキップ）および |◀◀（後方スキップ）のキーを同時に押します。ランダム再生を解除するには、この操作をもう一度行います。また、ディスクがセットされないままCDキーを押すと、表示部に O が表示されます。

 注意 レーザー光源をのぞき込まないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

 注意 ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

ラジオを聴く

◆LS-12Ⅱシステムの電源オンとラジオの選択◆

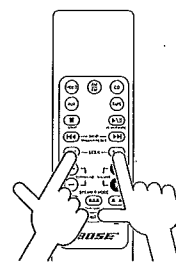
リモコンあるいはミュージックセンターのAM/FMキーを押すと、システムの電源が入り、最後に聴いたラジオの放送局が選ばれます。システムは、自動的にSURROUND（5スピーカー）モードを選択します。お好みに応じて、他のスピーカーモードを選んでお楽しみください。

注：LS-12Ⅱシステムの電源を入れて、ラジオをすでにお聴きになっている場合には、AM/FMキーで、AMとFMを切り替えできます。

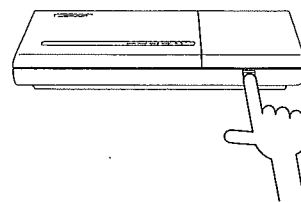
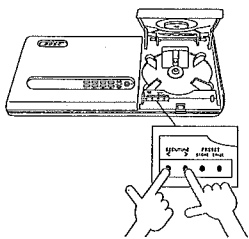
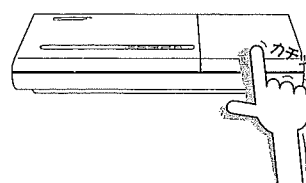
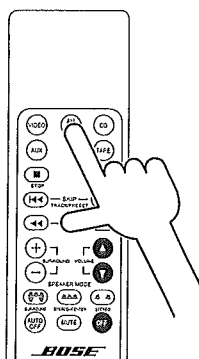
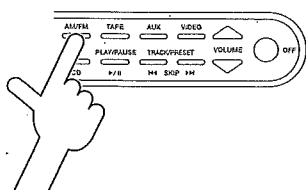
チューニング（放送局の選局）

◆放送局の自動選局◆

・リモコンの ▶▶（前方サーチ）キーあるいは ◀◀（後方サーチ）キーを一旦押してから放すと自動選局を行ないます。これらのキーを押し続けていると、ラジオは、どの放送局にも止まらずにサーチを続けます。または、ミュージックセンターの SEEK/TUNE < > キーを押すことでも自動選局ができます。

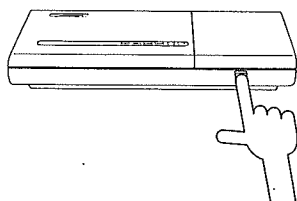
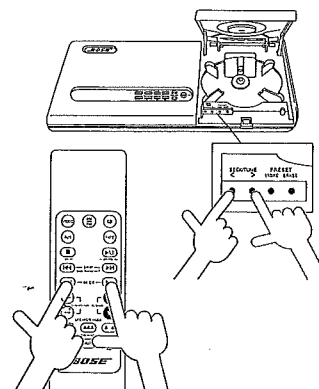
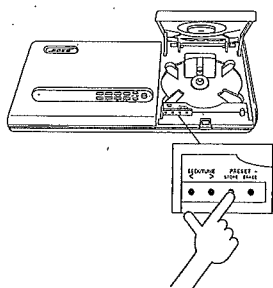
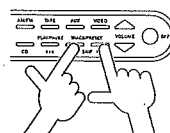
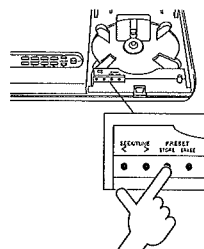
・ある方向でのサーチを止めるには、一瞬、反対方向のキーを押します。

◆手動で選局する◆

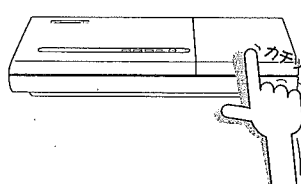
ラジオが自動選局できない電波の弱い放送局を選曲したい場合には、ミュージックセンターのCDカバーの下にある SEEK/TUNE < > キーを使ってください。

1. ミュージックセンターのCDカバーを開けます。

2. <（左）あるいは>（右）のキーを押して、低いあるいは、高い周波数の放送局をさがします。

3. CDカバーラッチがカチッというまでCDカバーを抑えて、蓋を閉じます。

◆AMとFMとの切り替え◆

AMとFMを切り替えるには、AM/FMキーを押します。

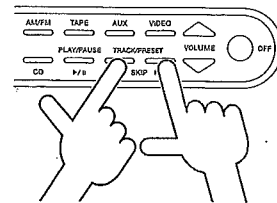
◆放送局の登録◆

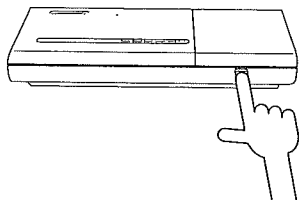
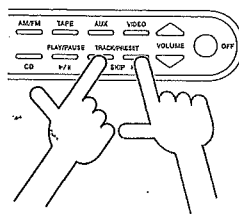
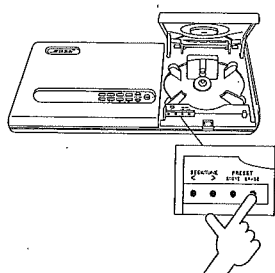
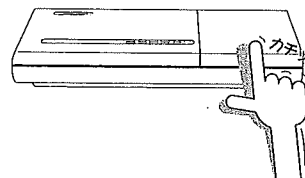
LS-12Ⅱシステムのミュージックセンターには、AMおよびFMの放送局をあわせて最高20局までメモリーできます。

1.ミュージックセンターのCDカバーを開けます。

2.手動あるいは自動選局で登録したい放送局を選びます。

3.ミュージックセンターのSTOREキーを押します。メモリー番号1～20の登録可能な一番小さい番号に登録されます。表示部に選んだ放送局とメモリー番号が表示されます。

4.放送局を今表示されている登録可能なメモリー番号と違う番号のメモリーに登録したい場合は、

STOREキーを押し続けたまま |◀◀（前方スキップ）キーあるいは ▶▶|（後方スキップ）キーを押して、違う登録可能な番号を選びます。

STOREキーを離します。

5.CDカバーを閉じます。

注：すでに使用されている番号には、すでに登録してある放送局を削除しない限り、別の放送局はメモリーできません（「登録放送局の削除」30ページ参照）。20局を超える放送局をメモリーしようとした場合には、表示部に、「－－」という表示が点滅し、登録できません。

◆登録放送局の選択◆

放送局を登録したら、ミュージックセンターの ▶▶| (前方スキップ) キーあるいは |◀◀ (後方スキップ) キーを押して、前あるいは次の登録している放送局を選びます。

◆登録放送局の削除◆

1. ミュージックセンターのCDカバーを開けます。

2. ミュージックセンターの ▶▶| (前方スキップ) キーあるいは |◀◀ (後方スキップ) キーを使って、削除したい登録してある放送局を選びます。

3. ミュージックセンターのERASEキーを押します。

4. CDカバーを閉じます。

外部の機器を聴く

接続してある外部の機器が動作していて、テープ、ビデオテープ、LD、DVDなどがセットされていることを確認してください。

注：LS-12Ⅱシステムは、接続されている外部の機器のON/OFFはできません。

◆システムの電源オンとコンポーネントの選択◆

リモコンあるいはミュージックセンターのTAPE、AUXあるいはVIDEOのキーを押してLS-12Ⅱシステムの電源を入れて、その入力端子に接続されている外部の機器を選びます。すでにシステムの電源が入っている場合には、TAPE、AUXあるいはVIDEOのキーのいずれかひとつを押して、外部の機器を選びます。
システムの電源を入れて外部機器を選択した時点で、表示部に対応するインジケーターが点灯します。

◆ビデオの音声を聴く◆

●ビデオデッキなどの電源を入れます。

TV、ビデオデッキ、LD、DVDなどの電源を入れます。ビデオデッキ、LD、DVDに、テープあるいはディスクをセットします。

ビデオデッキには、音声がモノラル方式のものと、ステレオ方式のものがあります。モノラル方式のビデオデッキをご使用の場合、どのスピーカーモードでもサラウンドスピーカーから音声はでません。また、モノラルで録音されていたり、二か国語録音の場合サラウンドスピーカーから正しい音声が再生されませんのでご注意ください。

◆ヘッドホンで楽しむとき◆

ヘッドホンで音楽を聴くには、ミュージックセンターの左側のステレオミニヘッドホンジャックを使用します。このジャックにヘッドホンのプラグを差し込んでください。ヘッドホンを接続すると、自動的にスピーカーからの音と背面のSPEAKER A 出力端子からの出力が止まります。

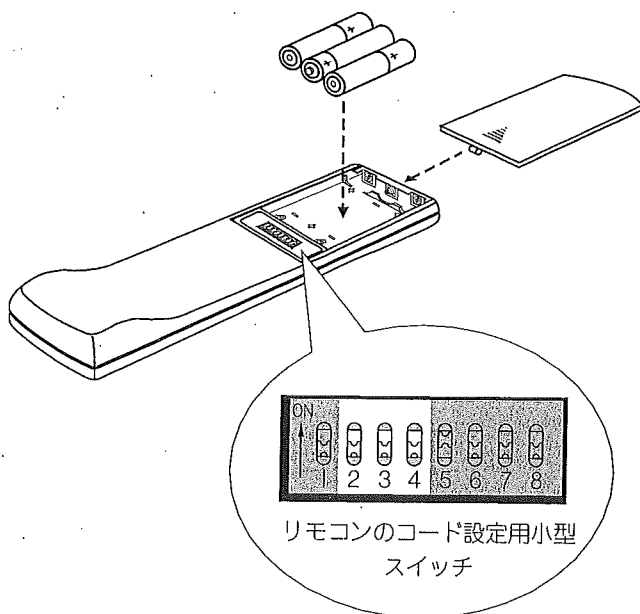
ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意下さい。耳を刺激するような大音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

リモコン小型スイッチの設定について

◆リモコンのコード設定のしかた◆

LS-12Ⅱシステムのリモートコントロールは、リモコン側で決めたコードをミュージックセンターに登録させて使用します。近くで同種のリモコンを使用していて、誤動作を起こす場合、そのリモコンのコードを違うコードにすることでトラブルを解消することができます。さらに、新たにリモコンを追加購入なさった場合は、新しいリモコンのコードを今まで使用していたものと同じものに設定し直してください。

1. リモコン背面のバッテリーカバーをはずします。
2. 小型スイッチ（下図）の位置を確認します。スイッチ2、3、4 のON,OFFの組み合わせがコードになります。出荷時は 3 つともOFFになっています（注：ここでは、他のスイッチの位置は変えないでください）。
3. リモコン背面のバッテリーカバーを元に戻します。
4. ミュージックセンターのOFFキーを押します。

リモコンのコード設定用小型スイッチ

5. ミュージックセンターのCDカバーを開けます。
6. ミュージックセンターのSTOREキーを押します。表示部は、「ーー」という表示を点滅させ始めます。
7. 表示部が点滅している2秒間の間に、リモコンの任意のキーを押します。表示部は、点滅しなくなり、瞬間的に「ーー」という表示を出して、コードが確認されたことを示します。システムはオフのままとなります。
8. 追加のリモコンを複数お持ちの場合には、各々のリモコン背面のバッテリーカバーを開けて、初めのリモコンのスイッチと合うようにすべてのスイッチに変更を加えます。なお、ステップ4から7は繰り返す必要はありません。

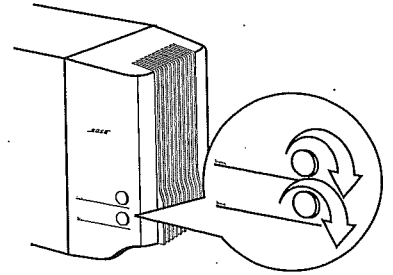
LS-12Ⅱシステムの音響調整

◆テストCDの使い方◆

付属のテストCDを使って結線のチェックとフロント側とサラウンド側スピーカーの音量のバランス調整を行います。
テストCDを再生するとチェックや調整の方法が聞こえてきます。指示に従って作業を行ってください。

◆システムの微調整◆

アクースティマスのアンプ部には、ボーズ社の特許技術P.A.P.回路を搭載し、どんな音量の時でも自然な音のバランスが得られます。さらにリスニングルームの音響特性に合わせて高域と低域を調整するためのルームアコースティックコンペンセーターも装備しています。

LS-12Ⅱシステムのルームアコースティックコンペンセーターは、アクースティマスにあります。この調整つまみによって、トレブル（高域）とバス（低域）を調節することができます。通常の設定では、各つまみの位置は、12時の位置になっています。また、このつまみは、センタークリックがついていますので、ちょうど中央の位置にくるとカチッという感覚が得られるようになっています。つまみを時計の針の回転方向に回すと、高域（TREBLE）あるいは低域（BASS）の量が増加し、反対に回すと減少します。

◆室内音響に合わせて調整◆

部屋の音響効果（音質）は、スピーカーシステムの全体的な音質に影響を与えることがあります。ルームアコースティックコンペンセーター機能を上手に使って、よりよい音響効果が得られるように調整してください。

●高域成分の調整

装飾家具、敷き詰めタイプのカーペット、重量のあるカーテンのようなサウンドを吸収する家具などを備えた部屋では、システムの高域成分が低減することがあります。スピーカーを柔らかい素材の家具から離すと、高域の量が増加します。また、トレブル（TREBLE）つまみを時計回りの方向に回して、高域成分を増やすこともできます。
また、床や壁がむき出しであるなど、音を吸収する家具などがあまりにも少なすぎる部屋では、高域成分が多くなります。その場合は、トレブル（TREBLE）つまみを反時計回りに回すと、高域を減少させることができます。

●低域成分の調整

バス（BASS）つまみを反時計回りに回すことによって、低域成分を減少させることができます。低域成分を増やすには、バス（BASS）つまみを時計回りの方向に回してください。

故障かな？と思ったら

問　題	対　　　　　　　応
システムが全く機能しない	・ACパワーパックがミュージックセンターに確実に差し込まれており、アクースティマスのACケーブルがアクースティマスに確実に差し込まれており、ACパワーパックとACケーブルが確実にACコンセントに差し込まれていることを確認する。 ・音源（CD、AM/FMなど）の選択が行われていることを確認する。 ・ミュージックセンターのACパワーパックのプラグを一旦引き抜いて5分以上たってからもう一度差し込む。これによって、ミュージックセンターがリセットできる。
音声が全く出ない	・ミュージックセンター・アクースティマス接続ケーブルがミュージックセンターのFIXED端子に接続されており、アクースティマスコントロール信号ケーブルがミュージックセンターにしっかり接続されていることを確認する。また、DINコネクタがアクースティマスのジャックにしっかりと差し込まれていることを確認する。 ・ミュージックセンターをOFFにして10秒以上たってから、もう一度電源を入れ直してしてみる。 ・外部の機器との接続をチェックする。希望する音源に対して適切な入力端子を選択しているか確認する。 ・デジタル機器との接続の場合は、デジタル入力用ケーブルにデジタル信号出力が接続されているか、デジタル機器のアナログ信号の接続がAUXに接続されているか確認する。 ・スピーカーとの接続をチェックする。 ・CDは、レーベル側を上に向けて、ミュージックセンターに正しくセットされ、蓋が閉じられていることを確認する。 ・ボリュームを上げる。 ・表示部にMUTEという表示が点灯している場合は、リモコンのMUTE キーを押しミュートを解除する。 ・ヘッドフォンジャックをミュージックセンターから抜く。 ・FMとAMのアンテナを接続する。
センタースピーカーから音声が出ない	・センタースピーカー用ケーブルの両端が接続されていることを確認する。 ・STEREO+CENTER（3スピーカー）モードあるいはSURROUND（5スピーカー）モードを選択する。
センタースピーカーからの音声が大きすぎる	・STEREO+CENTER（3スピーカー）モードで、SURROUND ⊖ キーを押す。 ・10秒間、STEREO+CENTER （3スピーカー）キーを押して、ボリューム設定を初期設定の音量にもどす。
サラウンドスピーカーから音声が出ない	・SURROUND（5スピーカー）モードを選択する。 ・SURROUND ⊕ キーを押す。 ・ビデオ音源がステレオであり、サラウンド録音されており、使用している機器（TV、ビデオデッキ、LD、DVD）がステレオであることを確認する。
サラウンドスピーカーの音量が大きすぎる	・SURROUND（5スピーカー）モードの場合、SURROUND ⊖ キーを押す。 ・左右のフロントスピーカーがフロント・スピーカー・ジャック（アクースティマスのジャック ① と ③）に接続されており、左右のサラウンド・スピーカーがサラウンド・スピーカー・ジャック（アクースティマスのジャック ④ と ⑤）に正しく接続されていることを確認する。 ・10秒間、SURROUND （5スピーカー）キーを押して、ボリューム設定を初期設定の音量にもどす。

問　題	対　　　　　　応
リモコンが正しく働かない、あるいはまったく働かない	・電池およびその極性（⊕と⊖）をチェックする。 ・リモコンをミュージックセンターに近づけて操作する。 ・31ページのステップ4から7を実行して、リモコンのコードを登録し直す。 ・ミュージックセンター・アクースティマス接続ケーブルが束ねられたり、丸まっていないかチェックする（14ページ）。
システムが自然にオン／オフする、あるいは異常な動作をする	・他のLS-12Ⅱシステムのリモコンの信号と混信を起こさないように、リモコンのコード設定を変える。31ページのコード設定についての項を参照。
CDが演奏できない	・ミュージックセンターのCDカバーが閉じているのを確認する。 ・表示部のプレイ記号 ▶ が点灯しているかチェックする。 ・CDキーを押して、数秒間待ってからミュージックセンターあるいはリモコンの ▶/II（プレイ／一時停止）キーを押す。 ・レーベル側を上にしてミュージックセンターにセットされているかを確認する。 ・ディスクにキズや汚れなどがついている可能性がある。別のディスクを使ってみる。 ・レーザーピックアップあるいはCDに塵やゴミが付いている可能性がある。市販のクリーニングキットを使ってみる。 ・ミュージックセンターではDVDは再生できない。
ラジオが動作しない	・アンテナが正しく接続されていることを確認する。 ・アンテナの位置を調節して、受信状態を改善する。 ・信号が弱い地域の可能性がある。
FMサウンドが歪んでいる	・アンテナの位置や向きを調節してみる。
サウンドが歪んでいる	・スピーカーケーブルが痛んでいたり傷ついていないことと、接続がしっかりとしていることを確認する。 ・ミュージックセンターに接続されている外部機器の出力レベルを下げる。
ボリュームの反応が過敏	・ミュージックセンター・アクースティマス接続ケーブルが、ミュージックセンターの、SPEAKERS A あるいは B ではなく、間違いなくFIXED端子に接続されているかチェックする。
テープ、CD、ビデオデッキなどの音声が出ない	・接続をチェックする。 ・外部機器の取扱説明書を参照する。
VIDEO SOUND、AUXに接続した外部の機器からの音声の低音が大きすぎる	“フィルムEQ” がかかっていないかを確認し、かかっているようであれば解除する（25ページ参照）。

故障の場合のお問い合わせ先

故障および修理のお問い合わせは、ボーズ株式会社、**修理担当部門** ☎ 修理部門 042-357-5250 / パーツ部門 042-357-5260
製品等のお問い合わせは、ボーズ株式会社、**インフォメーションセンター** ☎ **03-5489-0955**
までご連絡ください。

付録（SPEAKERS A,Bの使い方）

◆付属のSPEAKERS A, B出力端子について◆

将来的にシステムを発展させる外部スピーカー用拡張端子です。現時点ではこの端子を使用することはできません。

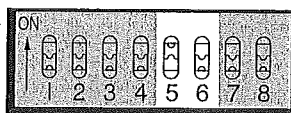
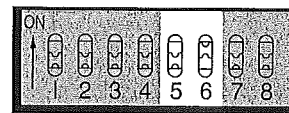
●スピーカー出力端子（SPEAKERS）Aにアンプ内蔵スピーカーを接続して使用する場合

・この端子に接続されたアンプ内蔵スピーカーの音声は、LS-12Ⅱシステムの ON/OFF に連動します。
・この端子に接続されたアンプ内蔵スピーカーの音声は、LS-12Ⅱシステムの 音量の上下、ミュートのON/OFF に連動します。
・この端子に接続されたアンプ内蔵スピーカーの音量と、LS-12Ⅱシステムの音量は同じになっていません。
※LS-12Ⅱシステムの音量とスピーカー出力端子（SPEAKERS）A に接続されたアンプ内蔵スピーカーの音量のバランスをとる場合は、ミュージックセンターの音量▼キーを15秒以上押してください。
・リモコンの初期設定は、スピーカー出力端子（SPEAKERS）A をコントロールするように設定されています。

●スピーカー出力端子（SPEAKERS）Bにアンプ内蔵スピーカーを接続して使用する場合

・新たにリモコンが必要になります。さらに、新しいリモコンの設定をスピーカー出力端子（SPEAKERS）B の信号をコントロールできるように設定し直す必要があります。
・スピーカー出力端子（SPEAKERS）B からの信号は、LS-12Ⅱシステムの ON/OFF に連動していません。独立して音量の上下はできますが、LS-12Ⅱシステムの音量の上下に連動しています（LS-12Ⅱシステムの音量と、SPEAKERS B の音量バランスが変えられます）。また、ミュートのON/OFFをコントロールすることができます。ただし、ミュージックセンターの音量▲キーを押すとミュートは解除されます。
※LS-12Ⅱシステムの音量とスピーカー出力端子（SPEAKERS）B に接続されたアンプ内蔵スピーカーの音量のバランスをとる場合は、ミュージックセンターの音量▼キーを15秒以上押してください。

●リモコンの設定について

スピーカー出力端子（SPEAKERS）B を使うために設定をします。
a.31ページを参照して、リモコンの電池カバーをはずします。
b.初期設定は、小型スイッチの5がON、6がOFFになっています（SPEAKERS A 用の設定）。
c.SPEAKERS B を使用するために5をOFF、6をONにします。
d.リモコンの電波のコードが、LS-12Ⅱシステム用のものと同じことを確認します（小型スイッチ2、3、4のON/OFFの組み合わせが同じになっていること）。
e.リモコンの電池カバーを元に戻します。

SPEAKERS A用の設定

SPEAKERS B用の設定

仕　様

〈 ACパワーパック部電力定格 〉

電　源　電　圧	AC100 V - 50/60 Hz、25VA

〈 スピーカー部 〉

サテライトスピーカー	6.0cmドライバー×2（防磁型 各1本）
アクースティマス	13cmドライバー×2（非防磁型）

〈 ミュージックセンター 出力 〉

可変出力端子	SPEAKERS A および B（使用しません）
固定出力端子	FIXED、TAPE
ヘッドホン	最低インピーダンス 32Ω
SYSTEM CONTROL 信号出力端子	アクースティマス部への信号を出力
出力インピーダンス	SPEAKERS A ,B : 600Ω
	TAPE REC : 1kΩ

〈 アクースティマス部定格出力 〉

L / C / R 出力	35W×3
サラウンド出力	35W×2
ベース出力	70W

〈 アクースティマス部電力定格 〉

電　源　電　圧	AC100 V - 50/60 Hz、350 W

〈 ミュージックセンター入力 〉

入力端子	TAPE , AUX , VIDEO SOUND
入力インピーダンス	TAPE : 100kΩ
	AUX , VIDEO SOUND : 5kΩ
F M アンテナ	75Ω
A M アンテナ	12 μH
電　源　入　力	12 V(AC)、1.0 A

寸法

ミュージックセンター	38.1（W）x 6.4 （H）x 20.2（D）
サテライトスピーカー	7.8 （W）x 15.7（H）x10.4（D）
アクースティマス	59.0（W）x 35.8（H）x19.2（D）

単位… cm

重量

ミュージックセンター	1.65kg
サテライトスピーカ	1.1kg×5
アクースティマス	14kg

保　証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

ボーズ株式会社

〒150-0044　東京都渋谷区円山町28-3　渋谷YTビル　TEL03-5489-0955

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。

OM-1167
99・9-0.2K-A・1(I-M)